

いのちをつなぐ

SARAYA

SUSTAINABILITY REPORT 2025

サラヤ持続可能性レポート



Contents

目次

- 9 サラヤのマテリアリティ
- 13 SDGsターゲットとサラヤ
- 15 サラヤの歴史と未来の技術SOFORO

衛生 Sanitation

- 19 東アフリカの衛生向上プロジェクト

環境 Environment

- 23 パーム油を持続可能に利用していくために
- 27 容器のプラスチック削減への取り組みの歴史
- 29 エジプト・チュニジアでの取り組み
- 30 「ソホロ」が創る未来の製品

健康 Health

- 33 Farm to Table
- 35 アメリカにおける健康ビジネスの拡大
- 36 東アフリカにおける
フードバリューチェーン開拓事業
- 37 未来の健康の実現に向けた
サラヤの取り組み

社会 Society

- 41 人権デュー・デリジェンス
- 42 多様な個性と能力の活用を目指す人材活用
- 43 社員の能力と強みを活かす人材育成
- 44 サラヤの健康経営
- 45 ワーク・ライフ・バランスの推進
- 46 いのちをつなぐ学校 by SARAYAの活動
- 47 社会貢献活動
- 50 ステークホルダーコミュニケーション
- 51 お客様満足に向けての取り組み

- 53 ガバナンス
- 54 製品安全/品質保証
- 55 社会データ
- 56 環境データ
- 57 会社概要

Sanitation

衛生 P.19から

Environment

環境 P.23から

Health

健康 P.33から

Society

社会 P.41から

編集方針

ガイドライン

本レポートは、サラヤの基本理念である「衛生」「環境」「健康」という3つのキーワードについて事業を通じてどのように実践しているかを紹介しています。それに加え、持続可能な社会の発展と顧客からの信頼獲得を実現する上で重要な「社会」「ガバナンス」、数値データなどの情報を網羅的に報告しています。

対象範囲

国内は以下の全事業所を対象としております。

- サラヤ株式会社
- 東京サラヤ株式会社

海外は以下を対象としております。

- Saraya MFG. (Thailand) Co., Ltd
- Saraya (Dongguan) Hygiene Products Co., Ltd.

対象期間

データの集計期間は当社の決算期である2023年11月から2024年10月としております。報告の活動内容は同期間を基本としておりますが、それ以前や以降の内容、写真が含まれています。

発行時期

2025年8月発行(次号の発行予定2026年9月)

参考ガイドライン

- GRIサステナビリティ・リポーティング・スタンダード
- 環境省『環境報告ガイドライン2018年版』

掲載媒体

当社webサイト

- 日本語版
<https://www.saraya.com/csr/report/>

- 英語版
<https://saraya.world/images/sections/sustainability/SustainabilityReport2024.pdf>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

サラヤでは、互いに密接な関係にある

衛生 環境 健康 という

3つのキーワードを事業の柱とし、
より豊かで実りある地球社会の実現を目指しています。

世界の「衛生、環境、健康」に貢献するサラヤ



衛生

安心で清潔な生活の実現に向け、
様々な感染リスクの低減に貢献します。

環境

開発から廃棄にいたる全工程において、
持続可能な製品づくりを目指します。

健康

製品とサービスを通じて、すべての人々の
健康で文化的な生活を支えます。

社員の意識や行動で社会課題をビジネスと繋げて持続可能としていく。

サラヤにはその風土が醸成されています。

持続可能な世界を実現するために

私たちが果たすべきことは何かを問い続けます。

サステナビリティについて

サラヤグループ

サステナビリティの基本的な考え方について

従来の「TQM推進本部方針／TQM活動方針」及び「環境方針」をSDGs・ESGの観点より、それらを考慮に入れ、サラヤ基本理念を踏まえたサラヤグループのサステナビリティ推進の在り方を「サステナビリティ推進方針」として制定します。

サラヤ基本理念に基づき事業活動を通じて、社会的課題を解決することで持続的な社会への貢献と企業価値向上を目指します。

サステナビリティ推進方針

サラヤの事業目的は、世界の「衛生・環境・健康」の向上に貢献することです。

いま、世界の持続可能性について懸念がある中、サラヤの事業目標を通じて少しでもその解決に貢献したいと思います。

目的達成に向けてグローバルなネットワークを構築し、国内外に独自の商品やサービスの提供を行うことで、事業を発展させます。そして、サラヤはビジネスを通じて、地球環境課題、社会的課題への対応を経営方針の重要事項のひとつと位置付け、お客様への環境価値提案を通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

サラヤグループのサステナビリティ推進のための行動指針を以下に定めます。

1. マテリアリティを特定し、事業活動を通して社会的課題を解決
サラヤグループ及び社会にとっての持続可能な成長に繋がるマテリアリティを特定し、事業活動を通して企業価値の向上を目指します。また、新しい市場ニーズの発見とそのニーズに対応できるさまざまなソリューションを提案し、実現することによって社会的課題を解決し、組織の活性化を進めます。
2. 社会との信頼関係の構築
すべての利害関係者とのコミュニケーションを通して、責任ある対話を行い、社会からのニーズや期待を受け止め、実践により強固な信頼関係を構築します。
3. 真のグローバル企業の確立とガバナンス強化によるサステナビリティ経営の実現
ニッチ分野でグローバルな生産と営業体制の確立を目指します。また、グローバルなガバナンスを各種コミュニケーション手段を駆使して強化します。公平性及び透明性のあるサステナビリティ経営を実現します。
4. 地球環境の保全、資源の持続可能な活用を目指した新商品の開発、新事業の創設、バリューチェーン、事業活動マネジメントの強化
地球温暖化対策、生物多様性及び生態系の保護等地球環境の保全に向けた事業活動を行うとともに、SDGsの推進を絡め合わせて

新商品の開発、新事業の創設に繋げ、持続可能な発展と、豊かな社会の実現を目指します。
また、取扱商品のサプライチェーンの資源の利用状況を把握し、持続可能なバリューチェーンの構築を目指します。それら運用管理のための仕組みであるマネジメントシステムの有効活用にて事業のマネジメントを強化し、詳細なガバナンスの開示を行います。

5. サステナビリティ推進に対する社員への教育の実施

「サステナビリティ推進」を実践するのは、グループ構成員である全社員の一人ひとりであり、とりわけ持続可能な開発目標である「SDGs」を理解し、社会的課題解決に関する認識を醸成するための教育を行います。
「サステナビリティ推進方針」に基づき本来業務を通してTQMのフレームワークにて、それぞれの部門で目標達成を果たします。

2019年(令和元年)5月1日

サラヤ株式会社 代表取締役社長

更家 悠介



Top Message

トップメッセージ



サラヤ株式会社 代表取締役社長
東京サラヤ株式会社 代表取締役会長

更家 悠介

ポスト万博 持続可能な開発目標と ビジネス

サラヤは2025年4月13日から同年10月13日まで開催されている2025大阪・関西万博において、NPO法人ZERI JAPANが出品する「ブルーオーシャン・ドーム」のバビリオンパートナーとして、その活動に賛同し、協力しています。

またその他のイベントにも参加し、大阪・関西万博を大いに盛り上げています。本レポートは、大阪・関西万博のテーマでもある「いのち輝く未来社会のデザイン」の実践、そしてビジネスを通じた持続可能な開発の実現に向けて、レポートをさせていただきます。



大阪・関西万博 ブルーオーシャン・ドーム

1 対立、分断 戦争をのり越えて

今、世界では、対立、分断、戦争が多発しています。また、多くの政治リーダーが、自国ファーストやミーファーストの考え方をアピールし、支持を受けています。経済的分断が進み、不満を抱く人が増えている結果かもしれません。また、対立や分断を煽るSNSの発信が、世の中を混乱させています。しかし、行き過ぎたミーイズムは、利己的行動を誘発し、利他的な行動を排する側面があります。少なくとも地球温暖化や、生物多様性の喪失、環境破壊、プラスチック海洋汚染、貧富の差の拡大、資源や富の行き過ぎた独占など、地球の持続可能性の問題については、利他的な対応が必要で、対立や分断、戦争を乗り越え、地球の持続可能性について、多くの国や企業、団体が協力して参加し、解決に取り組むべきと考えます。とりわけ後戻りできない点、ティッピング・ポイント到達まで時間は待たずに過ぎていくことを考えれば、早急な対応が必要です。

2 地球市民宣言とビジネス

私は、2023年に『地球市民宣言 ビジネスで世界を変える』（発行元：日経BP）という本を上梓しました。われわれは、各家庭、地域、国に立脚して日々の生活を営んでいますが、水や空気、環境など地球的な環境によって活かされています。そこで、環境を守り持続的に活用するため、それぞれの企業や市民も「地球市民」としての意識を持ち、日々の企業活動や個人生活にその意識を活かそうという宣言です。サラヤもこの精神をモットーにして、具体的にビジネスを展開し、地球環境の改善に貢献しつつ、ビジネスの発展を目指します。



地球市民宣言

われわれビジネスに携わる人間は、**実践によって世の中に、また、環境に対してより良いサービスや商品をお届けすることが大切**です。たとえそれが小さな実践であっても、連帯や連携を深めることで、持続可能な世界の実現に貢献できればと思っています。そして、そのための先行的事例を実践できるよう、努力してまいります。

3 ブルーオーシャン・プロジェクト

2025大阪・関西万博で、NPO法人ZERI JAPANは、ブルーオーシャン・ドームを展示運営しており、サラヤはそれに賛同して協力し、海の保全、持続的活用の啓発に取り組んでいます。ブルーオーシャン・ドームには、海を大切にしたいという志を持った方々が訪れ、講演や事業紹介をしてくれています。このような方々とのネットワークを活用し、サラヤは今後ブルーオーシャン・プロジェクトを推進します。



ブルーオーシャン・ドームで行われた海の啓発イベント「対馬ウィーク」



国連事務総長海洋特使
ピーター・トムソン氏(写真右)

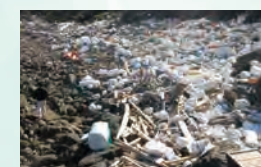
▶ **ブルーオーシャン・プロジェクトについては P7-8** へ

さて、海は地球の表面積の70%を占めており、われわれの日々の生活にも大きな影響を及ぼしています。陸上のことは、われわれの目で直接観察できますが、海のことは今もあまり良くわかっていません。そこで、海のことをもっと知り、もっと大事に活用する必要があります。海と陸は、いろいろな循環メカニズムでつながっていますが、陸上や海運で排出された温室効果ガスは地球温暖化を引き起こし、海には地球温暖化によって大きな熱エネルギーが蓄積され、それが台風や大雨、日照りなどの異常気象につながっています。また海水温の上昇と海水の酸性化で海の生物相が影響を受け、魚が取れない、サンゴの白化が進む、海藻が無くなったなど、様々な問題が起こってきています。更に、陸上で使われた大量のプラスチックが海に流れ込み、漁網や漁具の流入と相まって、プラスチック海洋汚染を引き起こしています。サラヤでは、ポスト万博に対馬プロジェクト、モーリタニアプロジェクトを実施します。

4 対馬プロジェクト

対馬プロジェクトでは、漂着ゴミとブラごみを処理し、マテリアリサイクル、エネルギー活用を図り、あわせて島エネルギー創生や産業創出を目指します。

対馬においては、長崎県・対馬市と連携して、①海ごみの回収とリサイクルなどの活用②島ゴミの活用とエネルギー自立化③島産業の育成などに取り組み、これに対馬モデルとして、プラスチックの海洋排出をしている島国や地域に紹介し、ビジネスを通じたプラスチック海洋汚染防止を目指します。この



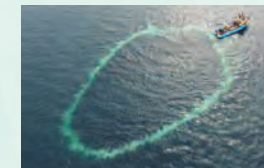
対馬市の海岸の状況

ため、2024年2月に子会社である株式会社ブルーオーシャン対馬を設立しました。この会社を中心に、順次プロジェクトを進めてまいります。

5 モーリタニアプロジェクト

モーリタニアは西アフリカにある人口400万人の国で、その国土の多くはサハラ砂漠に覆われています。一方、その海は大西洋の上昇海流で大変豊かです。1984年には、JICAなどから派遣された中村正明さんがタコ壺漁を教え、今年年間6~8万トンで漁獲する大きな産業に成長しています。最近是他国からの大型船が来訪し、冷凍船で漁獲を持ち帰っており、地元での産業育成が課題になっています。

サラヤは、フランスの関連会社と提携して、現地でアンチョビーの持続可能な漁業を行います。地元で缶詰めにすることで雇用を創出し、漁網を使わないネットフリーの漁法によるサステナブルな漁業実験を行います。①ブルーイノベーション②雇用創出③付加価値創出によって、いわゆるブルーエコノミーを実現します。



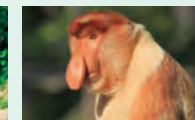
魚網を使わない泡による漁業「バブルフィッシング」

6 サラヤのビジネス、衛生、環境、健康のビジョン

サラヤのビジネスの目的は「世界の衛生、環境、健康に貢献する」ことです。このため、世界の国と地域に20拠点の工場と35拠点の営業拠点を設置しました。まずは、地域の第一次産業や雇用を増やし、拠点同士がネットワークすることによって、付加価値アップを目指したいと思います。そのためのプラットフォームの設定や運営、DX化に向けて事業を発展させていきます。

7 持続可能な開発目標SDGsへの対応

SDGsは2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。ポスト2025年大阪・関西万博の対応として、具体的には①マレーシア・ボルネオの生物多様性保全、②アフリカの衛生向上、③ブルーオーシャン・プロジェクトなどを推進します。さらに、コミュニケーション力を強化して現地の情報をお客様にお伝えし、お客様から頂戴したご意見をより良い商品やサービスに展開できるよう頑張っています。



絶滅が危惧されている野生生物
(左からオランウータン、ボルネオゾウ、テングザル)

8 世界の経済環境の変化について

2025年夏のアメリカの関税引き上げは、世界経済に大きなインパクトを与えています。世界の経済がブロック化し、対立化することが予想されますが、このような環境変化に対してわれわれは柔軟にサプライチェーンの立ち位置を模索して、世界経済が開かれた場所として運用されることを希望しつつ、現実的にその対応を模索し続けてまいります。お客様やその他のステークホルダーの皆様におかれましても、引き続きご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

BLUE OCEAN PROJECTS

サラヤの新しい挑戦が始まりました。

1 2025 大阪・関西万博パビリオン BLUE OCEAN DOME

サラヤは、NPO法人 ZERI JAPANが出展する「ブルーオーシャン・ドーム」で、海への理解を深め、「プラスチック海洋汚染防止」「海業の持続的発展」「海の気候変動の理解促進」を世界に発信し、ネットワークの拠点形成を目指す取り組みを支援します。



SARAYAは、大阪・関西万博のBLUE OCEAN DOMEのパビリオンパートナーです。



ZERI JAPAN (Zero Emission Research and Initiative in Japan)

ゼロエミッション構想を日本で展開するために2001年に設立されたNPO法人ゼリ・ジャパン。
サラヤはその設立に携わり、更家悠介が理事長をつとめます。

2 対馬プロジェクト

近年、アジア諸国からのプラスチックごみが、海流や風力によって、想定年間30,000~40,000m³も、対馬の海岸に押し寄せてきています。漂着ごみには、発泡スチロールの浮き球や、ナイロンなどの漁具・魚網、ロープなど、処理が難しいごみも多くみられます。
対馬で海洋プラスチックごみを全量回収し、資源化・エネルギー化のプロセスを確立し、そのエネルギーを活用した産業育成や脱石油、サーキュラーエコノミー化を目指します。



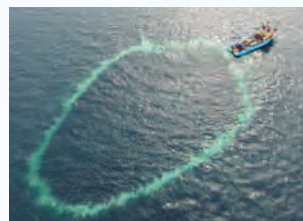
対馬市の位置と日本海の海流



対馬市の海岸の状況

3 モーリタニアプロジェクト

大西洋に面したモーリタニアで、地元の方々と共にZERI JAPANと協働して、ネットを使わないバブルフィッシング、藻の育成によるブルーカーボンの吸収プロジェクトなどビジネスを通じて持続可能な漁業(Blue Fisheries)に取り組みます。



4 Blue Coasterの 開発・造船

100%再生可能エネルギーで動く、プラスチックやマイクロプラスチックの回収など様々な用途に対応可能な多目的沿岸用ボートの開発を支援します。



5 帆船BLUE OCEAN みらいへ 万博キャンペーン

サラヤでは、ZERI JAPANが運航管理する帆船BLUE OCEAN みらいへを活用し、2025 大阪・関西万博の気運醸成や海の豊かさや大切さの普及キャンペーンを支援します。



6 ラピッドフリーザーを用いた 食品産業の活性化

最新の冷凍システムを活用し、食品産業の活性化による地域産業との連携と共創に取り組んでいます。サラヤの冷凍システムは、高品質な冷凍食品開発と衛生管理のトータルソリューション提案により、安全・安心で高品質な商品と事業支援を実現します。
凍結前の食品、包装、凍結、保存、解凍の5つのポイントを目的に合わせて組合せ、産地から消費地まで高鮮度のままお届けします。サラヤでは、液体急速凍結機ラピッドフリーザーを中心とした技術とノウハウで、水産資源の課題を解決していきます。



7 ブルーオーシャン・イニシアチブ との共創アクション

サラヤはブルーオーシャン・イニシアチブに参画し、海洋に特化したスタートアップや研究機関など「海」に関わる意思ある企業や団体との共創アクションにチャレンジしていきます。海洋プラスチック汚染対策、持続可能な水産資源の管理と「海業」の創出、ブルーカーボン普及促進など喫緊の海洋課題解決に取り組んでいきます。



BLUE OCEAN
INITIATIVE

詳しくは各団体のホームページをご覧ください

PROJECT 1

2025年大阪・関西万博パビリオン
ブルーオーシャン・ドーム

ZERI JAPAN
ホームページ



PROJECT 5

帆船BLUE OCEANみらいへ
万博キャンペーン

ZERI JAPAN
ホームページ



PROJECT 6

液体急速凍結機
ラピッドフリーザー

PRO SARAYA
ホームページ



PROJECT 7

ブルーオーシャン・
イニシアチブ

ブルーオーシャン・
イニシアチブ
ホームページ



サラヤのマテリアリティ

サラヤグループ サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

サラヤの事業目的は、世界の「衛生・環境・健康」の向上に貢献することです。

独自の技術力や強みを活かして、社会課題の解決に取り組み、社会の発展に貢献するとともに企業価値の向上を目指しています。

当社グループの継続的な経済価値の向上と社会課題解決への貢献のために、特に注力すべき重要課題をマテリアリティとして特定しています。

グループが取り組むべき、環境・社会・ガバナンス課題をサステナビリティ課題として再整理し、経営方針と一体化したマネジメントでサステナビリティ経営を進めています。

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)への取り組み

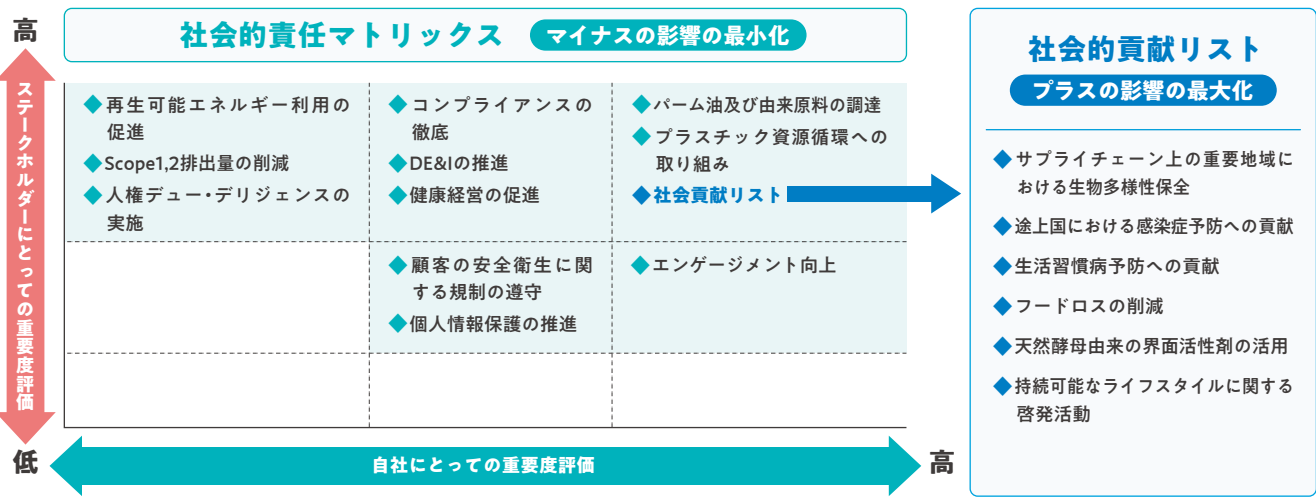
策定のプロセス

▼マテリアリティは以下の5つのステップで選定しました。



サラヤのマテリアリティ

▼サラヤのマテリアリティ



取り組みテーマが貢献するSDGs

取り組みテーマ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
再生可能エネルギー利用の促進							●					●	●				●
Scope1,2排出量の削減							●					●	●				●
人権デューデリジェンスの実施					●			●		●						●	●
コンプライアンスの徹底					●					●						●	
DE&Iの推進					●			●		●						●	●
健康経営の促進			●					●									●
顧客の安全衛生に関する規制の順守			●									●					●
個人情報保護の推進																●	
バーム油及び由来原料の調達								●				●			●		●
プラスチック資源循環への取り組み												●		●			●
エンゲージメント向上			●	●				●									
サプライチェーン上の重要地域における生物多様性保全												●			●		●
途上国における感染症予防への貢献			●	●				●	●			●					●
生活習慣病予防への貢献			●	●				●				●					●
フードロスの削減									●			●					●
天然酵母由来の界面活性剤の活用						●						●					●
持続可能なライフスタイルに関する啓発活動				●			●	●	●			●		●			●

サステナビリティ委員会の設置

サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は、サステナビリティ推進本部長が委員長を務め、サステナビリティを重視した経営を推進することを目的に、全社的な観点で議論し、取り組み方針を定め、具体的な施策について検討・実施しています。

加えて、社内への浸透や社外への発信を行っています。委員会の議論内容は取締役会に報告し、承認を得ることとしています。

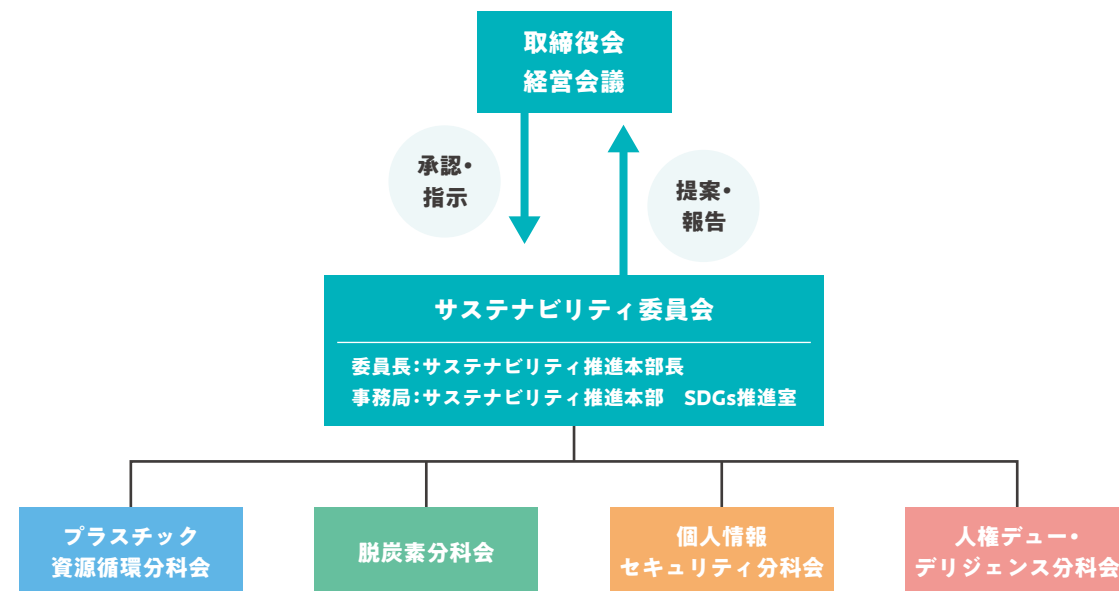
取り組みテーマの推進

分科会の設置

全社的に取り組みを進めるため、主管部門が中長期目標の策定、進捗を管理できるテーマは、全社の統括を担うKPIマネジメント体制内で管理を行うことに加え、部門横断で特定分野における活動を推進するため、4つの分科会を設置しました。各部門のトップがオーナーとして議論に参加、全体を統括して取り組みを進めています。

▶次ページに続く

サステナビリティ委員会構成



プラスチック資源循環分科会

資源循環型社会の実現に向け、資材の持続可能な利用、廃棄物の削減とリサイクルを推進するため、環境配慮型資材の調達や品質基準を評価・定義するとともに、生産や調達におけるプラスチック使用量削減と環境配慮型資材の利用促進を行います。

▶ 活動と進捗

サラヤではプラスチック資源循環に関する中長期方針を策定し取り組んできましたが、中期目標の年度である2025年まで経過したので分科会内で今後の方針について見直しを進めています。また、マテリアルフローの把握のための社内システムの検討、その他容器包装に関するトピックスについて部門横断で協議を進めています。

個人情報セキュリティ分科会

個人情報保護法に則り、個人情報を適正に取り扱うとともに、個人情報の保護に関する社内のマネジメントシステムを全社員及び関係者に周知徹底し、これを実行し、維持するとともに定期的に見直しをし、継続的改善を行います。

▶ 活動と進捗

まずは現状調査を行い、個人情報取扱規定の見直し、従業員向けガイドラインの策定、ガイドラインに基づいた従業員教育の実施、運用状況のチェックなどを課題として特定しました。今後はこれらの課題に対して取り組みを進めます。

脱炭素分科会

事業活動における自社拠点における省エネ活動と再エネ電力の利活用によるGHG(温室効果ガス)排出量の削減活動を実施、脱炭素に関連する進捗状況のモニタリングを行います。

▶ 活動と進捗

サラヤではスコープ1～3までのGHG排出量の算定は行っているものの、削減目標の設定までは行っていませんでした。削減目標を設定するためには従来のスコープ1～3までの算定方法よりも詳細な算定が必要なため、まずは対象範囲を限定し、削減ポテンシャルの検討を開始しました。

人権デュー・デリジェンス分科会

人権方針に基づいた業務執行が適正に行われるよう、教育啓発活動、および人権デュー・デリジェンスの継続的な実施の評価と助言を行います。

▶ 活動と進捗

まずは活動の根幹となるサラヤの労働と人権に関する宣言(人権方針)、カスタマーハラスメントに対する基本方針を策定、公開しました。調達方針、サプライヤー行動規範の策定も進めています。今後は人権に関しての従業員研修や、サプライヤーへの質問表調査の実施など活動を進めていきます。

サステナビリティ推進施策

▶ 社員への浸透施策

サステナビリティ経営を推進するにあたっては、社員が自社のサステナビリティ活動の方針や考え方を理解することや、それに向けての浸透が重要であると考えています。社員一人ひとりがサステナビリティ推進に対して当事者意識を持ち、推進に取り組む体制を作り上げることを目指し、年に1度の全従業員へのアンケート調査、従業員参加型のサステナビリティクイズの実施、従業員向けに社内外の情報を集約したコンテンツを社内イントラネットで共有、動画教材を作成し、自主的にサステナビリティ経

営を学ぶ機会を提供しています。難しい印象のある環境問題や社会課題の解決について親しみやすく、わかりやすく伝えるため、オリジナルの【ロゴ】と【キャラクター】を作成しました。サステナビリティ経営に関する国内外の動向をはじめとした基礎的な知識や、サラヤグループの事業活動との関わりについて理解浸透を図ることは、全社および部門における取り組みの社会的な意義を理解することになり、従業員に対するエンゲージメントの向上に繋がっています。

▶ サステナビリティ ロゴとキャラクター

知りたがりのゾウ

名前の通り知りたがりで無邪気な性格のゾウの赤ちゃん。ジャンルを問わずいろんなことに興味があり、疑問や質問をなげかけてくれます。



リアリストのヒト

現実的で懐疑的な性格の大人。様々な観点から偏りのない意見を持っています。それってほんと?といった感じで疑り深い一面もあります。知りたがりのゾウとはベストフレンド。



ものしりのニージー

多様性の象徴であるカメレオン。柔軟な性格の年長者の学者。ジャンルを問わずいろんなことを知っているの、わからないことはなんでも教えてくれます。ファンキーな一面もあり、感情によって色が変わります。



おっとりのカメメ

おっとりしていてとても優しいウミガメの子。環境問題、特に海洋問題にはとても敏感で、環境問題を中心に登場してくれます。きれいなものが好き。



ロゴに込めた想い...



サラヤに関わる人々が手を取り合い、サラヤのサステナブルバトンを未来に向けて回し続ける。SARAYAのサステナブルバトンの「ン」には「バトン」が隠れています。

ダンサーのチキウ

陽気な性格の若者。環境問題だけでなく人権問題など地球上で起きているすべてのことに関心があり、どんな場面でも登場してくれます。まわるのが大好き。



サステナビリティ推進本部 本部長よりメッセージ

持続可能な社会の実現に向け、様々な課題解決に向けた新たな共創や革新を生み出す場として、2025年4月13日から10月13日までの期間で2025大阪・関西万博が開催されています。

私たちもまた、絶えず変化し続ける社会の中で、現実的なリスクに向き合い、原材料の調達から最終的な廃棄物処理に至るまで、あらゆるプロセスを見直し、社会を持続可能なものへと変革していく一助となるよう挑戦を続けてきました。そして現在、この万博が掲げる「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマにもあるように、私たちは単に持続可能な仕組みを追求するだけでなく、「いのち」や「未来」がより豊かに輝く社会のあり方を見据えた変化を続けていかなければなりません。

見通しの難しい時代において、挑戦を止めることは即ち、停滞し、取り残されることを意味します。私たちは現状に甘んじることなく、「持続可能な未来への共創」に向けて、一步一步着実に、新たな取り組みを進めてまいります。

取締役 副社長
サステナビリティ推進本部 本部長

更家 一徳





SDGsターゲットとサラヤ

持続可能性レポートに掲載していない取り組みはサラヤホームページのサステナビリティをご覧ください。▶



SDGsの目標とターゲット（外務省仮訳）		サラヤの取り組み	掲載頁
目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる			
1.a	あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。	東アフリカのフードバリューチェーン	36
目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する			
目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
3.1	2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する。	社会貢献活動	47-48
3.2	全ての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。	社会貢献活動	47-48
3.3	2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。	東アフリカの衛生向上プロジェクト	19-20
3.4	2030年までに、非感染性疾病による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。	Farm to table、アメリカ健康ビジネス、未来の健康の実現に向けた取り組み、高齢者のQOL、健康経営、社会貢献活動	33-34、35,37-38、44,47-48
3.8	全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。	東アフリカの衛生向上プロジェクト、高齢者のQOL、社会貢献活動	19-20、38,47-48
3.b	主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾病のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアクセスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特に全ての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したものである。	東アフリカの衛生向上プロジェクト	19-20
3.c	開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。	東アフリカの衛生向上プロジェクト	19-20
3.d	全ての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。	東アフリカの衛生向上プロジェクト、未来の健康の実現に向けた取り組み	19-20,37
目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。	東アフリカの衛生向上プロジェクト、人材育成	19-20,43
4.5	2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。	人材活用	42
4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	いのちをつなぐ学校	46
4.c	2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。	東アフリカの衛生向上プロジェクト	19-20
目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う			
5.4	公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、並びに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。	ワーク・ライフ・バランス	45
5.5	政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。	人材活用	42
5.6	国際人口・開発会議（ICPD）の行動計画及び北京行動綱領、並びにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。	社会貢献活動	47-48
5.c	ジェンダー平等の促進、並びに全ての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。	人権デュー・デリジェンス、ワーク・ライフ・バランス	41,45
目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する			
6.3	2030年までに、汚染の減少、投棄廃絶と有害な化学物質や物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模での大幅な増加させることにより、水質を改善する。	ソホロ	30
目標7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する			
7.2	2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。	環境データ	56
目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する			
8.1	各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率7%の成長率を保つ。	バーム油の持続可能な利用、東アフリカのフードバリューチェーン	23-26,36
8.2	高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。	バーム油の持続可能な利用、エジプト・チュニジア、東アフリカのフードバリューチェーン、アメリカ健康ビジネス	23-26、29,35,36
8.5	2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。	人権デュー・デリジェンス、人材活用、ワーク・ライフ・バランス	41,42,45
8.7	強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らさせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。	人権デュー・デリジェンス	41
8.8	移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。	Farm to table、人権デュー・デリジェンス、人材活用、人材育成、健康経営	33-34,41、42,43,44

SDGsの目標とターゲット（外務省仮訳）		サラヤの取り組み	掲載頁
目標9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る			
9.2	包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030年までに各国の状況に応じて雇用及びGDPに占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。	エジプト・チュニジア、東アフリカのフードバリューチェーン	29,36
9.4	2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。	プラスチック削減、東アフリカのフードバリューチェーン	27-28,36
9.b	産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。	東アフリカの衛生向上プロジェクト	19-20
目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する			
10.2	2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。	人権デュー・デリジェンス	41,42
10.3	差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。	人権デュー・デリジェンス	41
10.4	税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導入し、平等の拡大を漸進的に達成する。	人権デュー・デリジェンス	41
目標11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する			
12.2	2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。	バーム油の持続可能な利用、アメリカ健康ビジネス	23-26,35
12.3	2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる。	アメリカ健康ビジネス、東アフリカのフードバリューチェーン	35,36
12.4	2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。	ソホロ	30
12.5	2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	プラスチック削減	27-28
12.8	2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。	いのちをつなぐ学校、お客様満足	46,51-52
12.a	開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。	東アフリカのフードバリューチェーン	36
目標13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる			
目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する			
14.1	2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	プラスチック削減	27-28
目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、土地の劣化の阻止・回復、生物多様性の損失を阻止する			
15.1	2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	バーム油の持続可能な利用	23-26
15.3	2030年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつ及び洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。	エジプト・チュニジア	29
15.5	自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。	バーム油の持続可能な利用	23-26
目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的説明責任のある包摂的な制度を構築する			
16.3	国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、全ての人々に司法への平等なアクセスを提供する。	人権デュー・デリジェンス	41
目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
17.16	全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。	東アフリカの衛生向上プロジェクト、バーム油の持続可能な利用、エジプト・チュニジア、社会貢献活動	19-20、23-26,29、47-48
17.17	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。	東アフリカの衛生向上プロジェクト、バーム油の持続可能な利用、プラスチック削減、未来の健康の実現に向けた取り組み、高齢者のQOL、人権デュー・デリジェンス、社会貢献活動、お客様満足	19-20,23-26、27-28,37,38、41,47-48,51-52



サラヤが取り組んでいるSDGsの目標（goal）とターゲット

サラヤの歴史と 未来の技術SOFORO

取締役 商品開発本部長
兼サラヤ総合研究所長

平田 善彦

2025年4月13日に2025 大阪・関西万博が 開幕しました。

サラヤは、NPO法人 ZERI JAPANが出展する「ブルーオーシャン・ドーム」で、海への理解を深め、「プラスチック海洋汚染防止」「海業の持続的発展」「海の気候変動の理解促進」を世界に発信し、ネットワークの拠点形成を目指す取り組みを支援しています。

5月末には「ブルーオーシャン・ドーム」で「SARAYAウィーク」を実施し、2000人近くのお客様に来ていただきました。ここでは、「SARAYAウィーク」標準ステージの内容を紹介します。



ブルーオーシャン・ドーム

サラヤのルーツ

サラヤ創業は今から73年前の1952年です。世界遺産に登録された三重県・熊野で、代々、林業を営む家系に生まれた更家章太によって創業されました。熊野は自然崇拜と神仏習合、修験道が融合した独特な信仰文化の歴史を伝える貴重な場所です。その独特の世界観は、「人にも環境にも優しいものづくり」というサラヤの商品開発の基本に通じています。

社会的課題の解決にチャレンジ

創業時、戦後間もない日本は、衛生環境がよくなり、伝染性かつ致死性の、おそろしい細菌性赤痢が蔓延していました。この社会的課題の解決を目指して開発をしたのが、手を洗うと同時に殺菌・消毒ができる日本初の薬用せっけん液です。多くの方に記憶いただいているこの緑色の石けん液には、ヤシの実由



来の油を使用しています。手肌にやさしく、また、使ったあとの排水は地球を汚しません。



汚染された多摩川

1971年、高度経済成長の裏で深刻化する環境汚染の中、サラヤは石油原料全盛の時代にあって「植物由来の洗剤」に挑戦しました。ヤシノミ洗剤の誕生です。1982年には、食器用洗剤では業界初となる「詰替パック」を導入。



1982年に発売したヤシノミ洗剤詰替パック

持続可能な発想を、社会実装によって完結させる—これがサラヤの精神です。

SOFOROとは？

サラヤがたどり着いた、未来の洗浄成分—それがSOFOROです。SOFOROは、微生物が生み出す天然の界面活性剤、「バイオサーファクタント」のひとつ。研究を始めてからすでに30年。いまでも私たちは、「生きものが洗剤をつくる」というこの仕組みに、驚きと不思議さを覚えます。

バイオサーファクタントは、1970年代に発見されて以来、多くの研究開発者が、その実用化を目指してきましたが、安価な石油由来の合成洗剤が全盛の時代に、安定供給と経済合理性の壁を超えることができませんでした。まさに、死の谷…

この死の谷を越えて、未来の洗剤として、サラヤが世界で初めて洗浄剤としての社会実装に成功しました。その製法は日本の伝統技術でもある「発酵」です。パーム油と糖をSOFORO酵母が醸してくれます。天然の界面活性剤SOFOROは、優れた洗浄力、高い安全性、優れた環境性能を併せ持つ唯一無二の成分です。現在、SOFOROは、パーム油の中でも、環境と人権に配慮したRSPO認証を

取得したパーム油から製造されています。セグリゲーション方式のRSPO認証油※を洗剤で社会実装したのも、サラヤが初めてです。

※RSPO認証油については **P23** を参照



さらに、最近になって、発酵原料としては活用が難しいとされる海藻から、SOFORO発酵ができることがわかってきました。海のめぐみである海藻から洗剤をつくる。近い未来に、海藻由来のSOFOROが、みなさまの日常でお役に立てる日を目指して研究を進めています。

家庭用の洗剤として社会実装をスタートしたSOFOROは、現在、海上自衛隊の食堂や医療器具の洗浄など活用の幅を広げています。そして、洗浄剤の枠を超えて下記のようなさまざまな分野で社会実装に成功しています。

SOFORO 多方面にわたる活用分野

1

東日本大震災での
放射性物質の除去



2

揮発性有機成分VOCなどで
汚染された土壌の改善



3

機械力を使わないSOFORO
ウルトラファインバブルは
褥瘡など創傷治療



4

オーガニック化粧品や食品



再生医療への扉を開いたSOFORO

2019年SOFOROは再生医療への扉を開きました。再生医療はこれまで治らなかった難病の克服など、未来デザインとして大いに期待されています。開催中の2025 大阪・関西万博でも、iPS細胞由来の心筋シートを代表例に、多くの再生医療に関する未来技術が展示されています。

再生医療を“あたりまえ”の医療として社会に根付かせるために

は、iPS細胞をはじめとする細胞の安定的な増殖を支える足場素材の開発、ならびに、増殖した細胞を損傷させることなく凍結保存できる技術の確立が不可欠です。これらの周辺技術の革新こそが、再生医療の実用化と普及を加速させる鍵を握っています。SOFOROは、水の構造や挙動に作用することで、細胞の凍結保存時のダメージを抑え、高品質な状態での保存を可能にすることが分かりました。

この技術を応用すると、38億年かけて育まれた多様な生命たちの維持や保存にも可能性を秘めています。絶滅危惧種が増え、毎日のようにいのちが消えていく現在、動植物の細胞を、「生命のゆりかご」とも言えるSOFORO保存液で眠らせ、未来に託すことも期待できます。

高細胞生存率の細胞保存液 「SOFORO Cryo(ソホロ クライオ)」

SOFOROの生体適合性の高さを活かして細胞用凍結保存液として応用。ソホロを配合することで、従来の保存液の課題だった細胞毒性や抗原体変化などを低減し、融解後の細胞生存率を高めることができます。



未来に向けて

2050年、サラヤは全ての洗浄成分をSOFOROに変更することを目指します。その理由は環境にやさしい、というだけではありません。今も世界のどこかで使われた石油系界面活性剤は、川から海へと流れついています。プラスチックと異なり、水に溶けてしまう界面活性剤は、目に見えず回収が不可能で、その量はプラスチックの2倍近い1500万トンとも推定されます。目に見えない洗剤による海洋汚染をこれ以上広げない。社会的課題に見て見ぬふりをせず、果敢に挑み、社会実装をもって社会へ還元していきます。

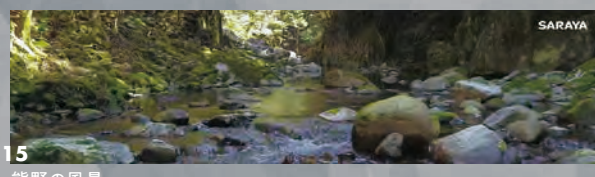
世界は課題にあふれています。2025 大阪・関西万博では独自開発中のイヤホンを試験活用しています。第三の聴覚経路とも言われる軟骨伝導式を採用したこのイヤホンは集音機としても活用できます。耳が聞こえにくくなることはコミュニティーから孤立し認知症リスクになります。このイヤホンには、「孤立させない自立支援」という思いが込められています。



軟骨伝導式のイヤホン

太陽系で“いのち”を宿す唯一の星、地球。SOFOROは、38億年もの時をかけて地球上で育まれた、生命由来の成分です。私たちはこの「生命のゆりかご」から生まれたSOFOROに未来を託します。生命の源である海を守り、人と生き物の未来をつなぐ。サラヤは、SOFOROを軸に、持続可能な新しい世界へ挑戦を続けます。

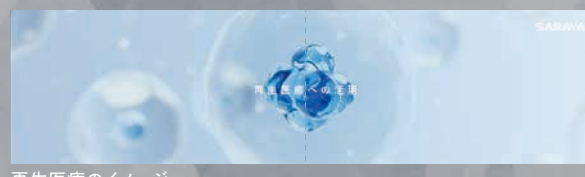
写真の一部は「SARAYAウィーク」で発表された、広報宣伝統括部とデザイン部映像制作課によるプロモーション動画より抜粋して掲載しております。



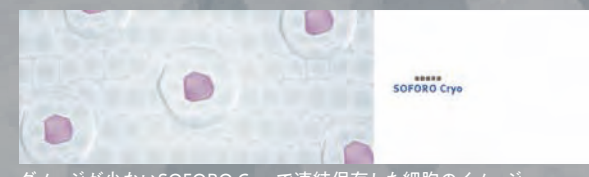
15 熊野の風景



ヤシノミ洗剤シリーズ



再生医療のイメージ



ダメージが少ないSOFORO Cryoで凍結保存した細胞のイメージ



地球の生物たち

01 Sanitation

衛生

安心で清潔な生活の実現に向け、
様々な感染リスクの
低減に貢献します。

世界各国の
衛生ニーズに沿った
商品・サービスを提供し、
手洗い世界NO.1企業を
目指します。

創業当時から続く
サラヤの事業の原点である手洗い。
サラヤは途上国の衛生に
貢献する活動も行っています。

ウガンダからスタートした
アフリカビジネスは、ケニアやエジプト、
チュニジアへと広がりました。

今後は西アフリカ、
南アフリカへと活動を広げ、
アフリカ全土でサラヤの商品・サービスが
人々の健康に寄与することを目指し、
感染予防で培ったノウハウに
先進の技術を取り入れながら、
世界のUHC※達成に向けて
取り組みを進めていきます。

※UHC…「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、
機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で
受けられる」ことを意味します。



01 東アフリカの衛生向上プロジェクト

▶ 手指衛生促進の中心的な存在となる人材を育成

ウガンダの医療施設における

感染予防管理対策の促進と患者安全対策に
貢献する取り組みを行っています。



第1回 TTT (Train the Trainers) in hand hygiene -Ugandaの開催

~WHO 手指衛生多角的戦略に基づく手指衛生指導者育成プログラム~

WHOでは2000年代に患者安全や医療関連感染症を大きな問題と捉え、国際的に取り組むべき議題として様々な対策を進めてきました。

現在、手指衛生は医療施設レベルでの様々な感染予防管理対策促進や患者安全対策の中心のかつ最初に取り組むべき活動として認識されています。

また、ジュネーブ大学感染管理チームは感染予防管理・手指衛生分野の先駆けとして、WHO手指衛生促進キャンペーンにも

貢献してきたWHO協力施設の一つです。さらに彼らは啓発活動のみならず、手指衛生改善を実践に移す活動の一環として Train the Trainer (TTT:各国で指導的な立場となる指導者養成トレーニング)の開発に取り組んできました。プログラム参加者は3日間の実践的なトレーニング終了後、認定証を授与され、各施設および地域で手指衛生促進の中心的な存在としての活躍が期待されています。

2023年12月、サラヤ・ウガンダ法人はジュネーブ大学感染管理 (HUG・IPC) チームをウガンダに招き、現地保健省、JICAウガンダ事務所とともに、TTT (Train the Trainers) in hand hygiene-Ugandaを開催いたしました。アフリカでは南アフリカに次ぐ2番目の開催であり、これはWHOやHUG・IPCチームのウガンダ官民連携体制に対する信頼や期待の表れであると考えられます。トレーニングプログラムは座学やロールプレイング、各現場の情報交換を交え、地域中核病院を中心に、保健省担当部門、マケレレ大学感染症研究所から合計52名に参加いただきました。講師からは「参加者が非常に積極的で、インタラクティブなトレーニングができた」というコメントを頂き、参加者からは「世界基準のトレーニングを受け、認定証を授与され、自施設に戻って手指衛生や感染予防管理に自信を持って取り組んでいくモチベーションとなった。」「ウガンダ国内の他の施設とのネットワークを築く良い機会になった。」との感想も聞かれました。

今後、ウガンダの医療施設における感染予防管理、および患者安全の発展にさらに貢献すべく、今回の参加者と共に継続的な取り組みを進めていきたいと考えています。



ジュネーブ大学Didier Pittet (ディディエ・ピット) 教授



トレーニングの様子



▶ ケニア・スナノミ症対策プロジェクト

サラヤはこれまでの処方技術を駆使し、
簡便で有効なスナノミ症治療薬を開発しました。

顧みられない熱帯病・スナノミ症への対応

スナノミ症とは

スナノミ症とは、スナノミ (Tunga penetrans) というノミを介して生じる寄生虫性皮膚疾患です。アフリカ、中南米、インドなど世界20カ国以上で深刻な問題となっており、ケニアだけでも200万人の患者がいるとされています。

感染すると気付かないうちに進行し、全身の壊死、リンパ管炎につながり、また、不衛生な環境や不適切な治療による敗血症、破傷風、HIV/AIDSなどの二次感染を引き起こす原因にもなっています。ケニア保健省は世界で唯一政府としてスナノミ対策のガイドラインを制定し、3月3日をケニア・スナノミの日と定め、その根絶を目指しています。しかし、その被害地域および被害規模が限定的なため、他の多くの「顧みられない熱帯病」と同様に、これまで有効な治療薬は開発されていませんでした。



スナノミが寄生した足 (写真左上) とケニアのスナノミ症集団治療 (写真右上と下)

スナノミローションによる治療の症例



スナノミ症の治療薬開発

この状況に対して、サラヤでは有効な殺虫成分を特定するとともに、これまでの手指衛生薬剤開発で培ったスキンケア技術を組み合わせ、より簡便で有効な治療薬を開発しました。少しの量で患部全体に塗り広げることができるローションタイプで、1週間に2回、2週間塗布する用法です。本薬剤は2021年にケニア薬・毒物委員会によってMedical Deviceとしての薬事承認を得たのち、2024年1月にサラヤ・ウガンダ工場がISO13485の認証取得したことにより、アフリカでの製造販売の道が開けました。



ISO13485認証書

ケニアでの製品発表会

2024年8月5日、サラヤはケニア保健省とともにスナノミ症治療薬の製品発表会を開催しました。参加された保健省ムトニ事務次官は、政府と民間の連携の重要性を強調し、根絶と偏見軽減への取り組みを呼びかけました。また、NGO・Ahadi Trust KenyaのカマウCEOは、新治療薬が根絶へ向けた大きなマイルストーンであると評価しました。

スナノミ症根絶には他の顧みられない熱帯病同様、多くの課題があります。しかし、今回、保健省が国家政策として監視・支援強化を打ち出したことは大きな前進といえます。サラヤとしては、ケニアでのパートナーシップ拡大と治療実績の蓄積を進め、将来的には東アフリカ、サブサハラ、インド、南米への普及を目指したいと考えています。



スナノミ症治療薬の製品発表会



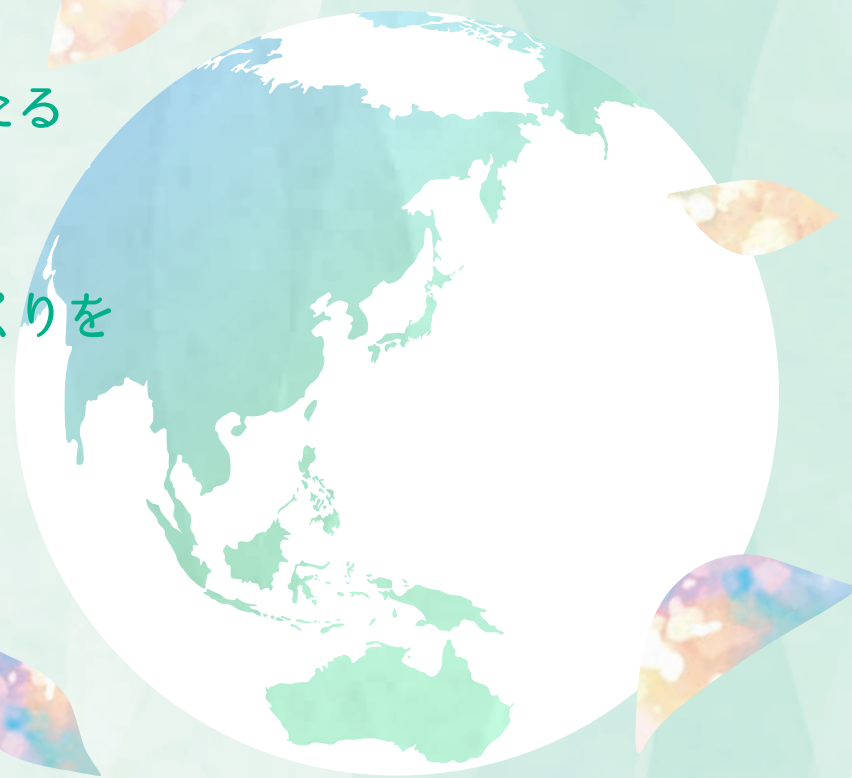
保健省ムトニ事務次官 (左) と会場でのスナノミローションによる集団治療 (右)

02

Environment

環境

開発から廃棄にいたる
全工程において、
持続可能な製品づくりを
目指します。



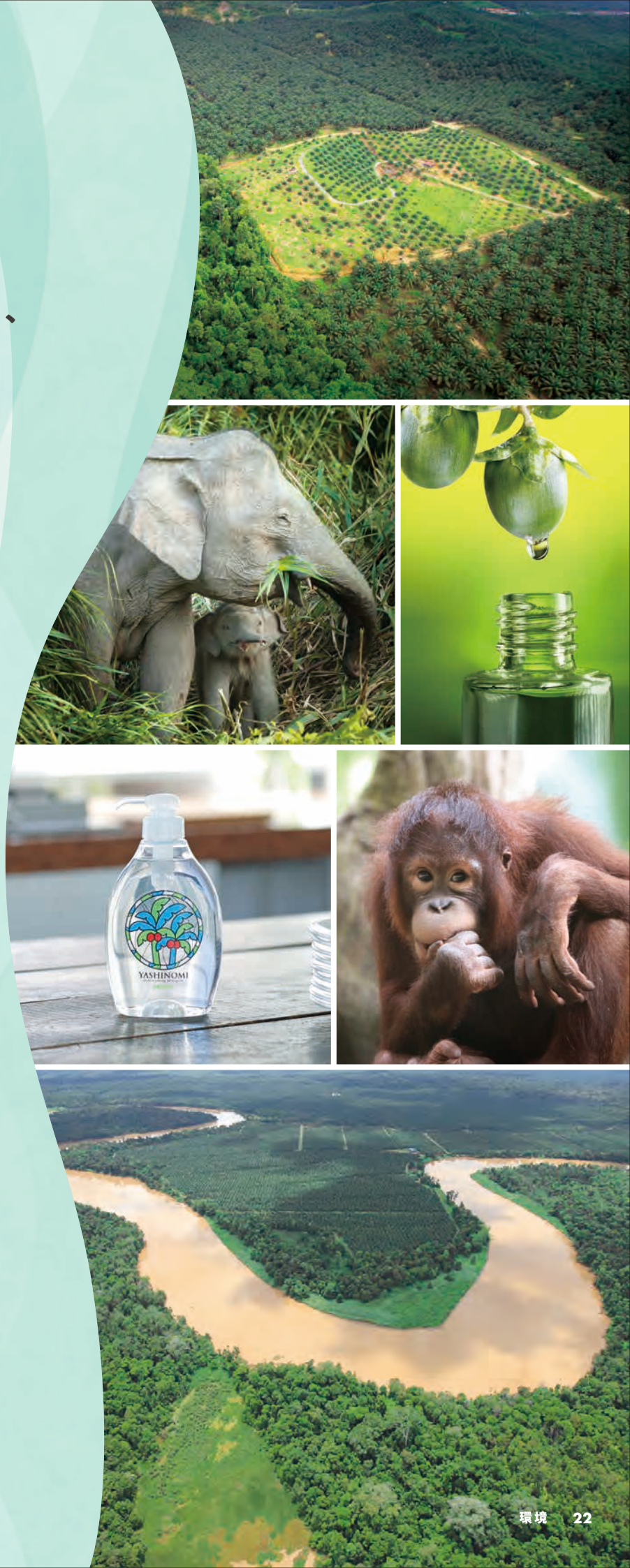
**持続可能な地球のために、
サラヤは地球市民の
一員として全力で
立ち向かっています。**

サラヤは1952年の創業時から、
各時代の社会問題解決に
貢献する商品を世に送り出し、
事業基盤を確かなものにしてきました。

とりわけその中心にあったのは、
水と空気的环境悪化に
対する対応でした。

サラヤの原点とも言える
この地球環境問題へのアプローチは、
いま、地球の持続可能性への
取り組みとして続いています。

環境破壊によって引き起こされている
地球温暖化、生物多様性の減少、
海洋汚染の問題にサラヤは
全力で立ち向かっていきます。



01 パーム油を持続可能に利用していくために

▶ ボルネオの生物多様性保全活動とRSPO認証の普及

サラヤでは、パーム油を持続可能に利用していくため、現地の生物多様性保全と、RSPO認証の普及の両輪での活動に取り組んでいます。



ボルネオでの生物多様性保全活動に至る経緯

子ゾウの涙

サラヤがボルネオ島で生物多様性保全の取組みを始めたのは、2004年8月に放映された自然や環境をテーマにしたテレビ番組がきっかけでした。その放送ではボルネオの熱帯雨林は伐採され、森で幸せに暮らす野生動物たちは、生息地を追われ、絶滅の危機に瀕しているというものでした。

なかでも固有種であるボルネオゾウの姿は悲惨でした。森が失われ農園に入り込んだゾウ達は、そこで人間が仕掛けた跳ね縄とよばれるナイロン製のロープの罠に傷つけられ苦しんでいたのです。

ボルネオの熱帯雨林はこの50年ほどで急速に減少しています。その主な原因はアブラヤシ農園の拡大です。アブラヤシの実からはパーム油が、種からはパーム核油が採れます。これらは、主には食用として、私たちの生活に欠かせないものになっています。

この番組は当初、パーム油を利用している食品会社にこの現状についてどう思うかインタビューを求めました。しかし、すべて断られ、なんとか人脈をたどってたりついたのがサラヤでした。弊社の看板商品でもあるヤシノミ洗剤は、ごく少量ではありますが原料の一部にパーム核油を使っていたのです。



ナイロンロープの罠にかかった子ゾウの足



アブラヤシ

パーム核油



ボルネオ島と周辺国地図



更家のボルネオ島現地視察(2006年)

番組インタビューとその後

弊社社長の更家はこのインタビューを受け、率直に、原料調達地でそのような問題があることを知らなかったこと、そして同時に、改善活動もすることを伝えました。国際協力に詳しい人員を雇い入れ、現地に派遣して、どのような対応をすればよいか調査を始めたのです。そして始めたのが、現在も続く生物多様性保全活動と、当時設立間もなかったRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) に加盟して業界の改革に協力することだったのです。

ボルネオ保全トラストの活動支援

2004年年末からボルネオ島の生物多様性保全の調査を開始し、最初に行ったのは負傷した象の救助活動でした。しかし、それだけでは根本的な問題解決にはつながりません。そこで生物多様性保全の専門家やマレーシア、サバ州の野生生物局の協力を得て始めたのが、「緑の回廊プロジェクト」でした。

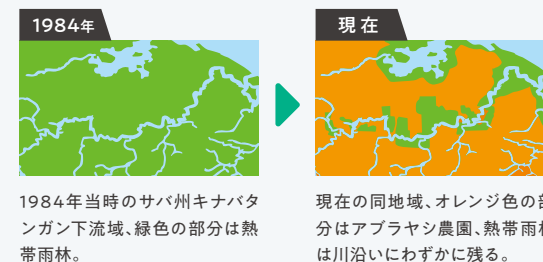
ボルネオ島の熱帯雨林は急激に減少し、見渡す限りのアブラヤシ農園がひろがっています。森林はそこに島のように小さく分断されて

残っているだけです。この小さな森に棲む野生動物たちは移動の際に農園や人間の居住地を通らざるを得ません。そしてそこで人間との衝突が起ってしまうのです。



アブラヤシ農園に入るゾウ

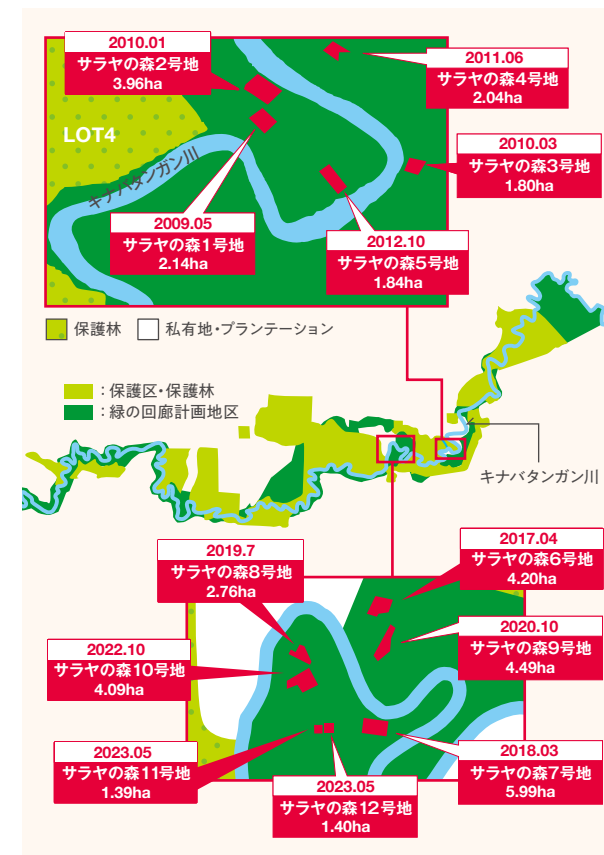
▶ プランテーションの拡大



ボルネオ最大の川、キナバタンガン川沿い近くまでアブラヤシ農園が拡大

緑の回廊プロジェクトでは、この森と森の間の土地を、農園などから買い上げて、一続きの広い森として回復することを目的としています。そのためにマレーシア、サバ州で創設されたのがボルネオ保全トラストという非営利団体です。そしてその活動を日本から応援するためにボルネオ保全トラスト・ジャパンが創設されました。

この二団体の協働によって、2008年から2025年4月までに100ヘクタール以上の土地を獲得しました。この運動による土地の購入だけで目標を達成するのは困難ですが、こうした努力が現地政府の政策や地域住民の心を動かし、ボルネオの森を守る大きな変化につながることを期待されています。サラヤはヤシノミシリーズなど対象商品の売上1% (メーカー出荷額) を寄付し、それを資金に獲得された「サラヤの森」も12カ所・計 36.1ha (2025年4月現在) まで広がっています。



野生動物を救う「緑の回廊プロジェクト」

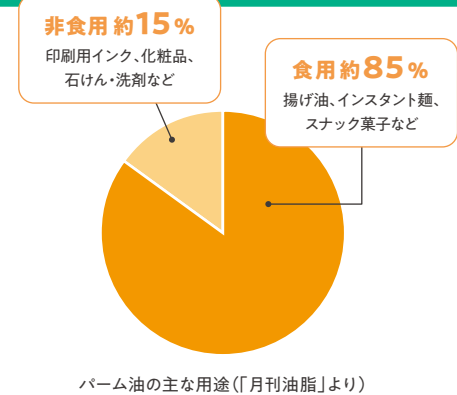
持続可能なパーム油の調達

人々の生活を支えるパーム油

パーム油は日本も大量に輸入しています。その約85%が揚げ油やインスタント麺、スナック菓子などの食用に、残り約15%が石けんや洗剤などの非食用に利用されていて、私たちの生活に広く浸透しています。

これほど世界に需要が広がったのは、他と比べて安価であるためです。パーム油は、単位面積当たりの収穫量が多く、大豆油などの他の主要植物油を大きく上回っています。

安価なパーム油を取り巻く環境には、児童労働や強制労働などの違法労働、違法伐採など、様々な問題が内在しています。それらを少しでも改善するために、サラヤは環境保全と持続可能な原料調達に取り組んでいます。



パーム油の主な用途(「月刊油脂」より)

RSPO認証原料調達状況と今後の方針

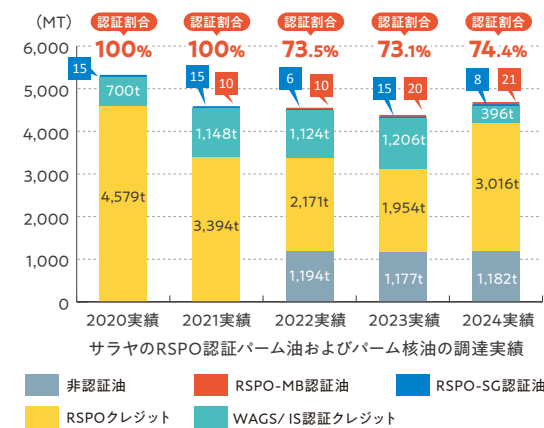
RSPO推進体制と調達実績

サラヤは、2005年に日本に籍を置く企業として初めてRSPOに加盟しました。また、2010年に日本で初めてRSPOサプライチェーン認証を取得し、認証マーク(セグリゲーション=分離型)を表示した商品を発売して以来、規格に基づいた運用を継続しています。社内に部門横断の推進体制を設け、各種文書の整備、教育訓練、内部監査、外部認証審査の受審などを実施しています。

石けんや洗剤の原料として使用量の多いパーム核油由来の誘導体原料については、サプライチェーン全体でのRSPO認証導入が進んでおらず、フィジカルな認証モデルの原料の調達が困難な状況にあります。そこで、ブックアンドクレーム(帳簿ベース主張型)と言われる認証モデルで、生産者の発行するクレジットを購入することで、持続可能なパーム油の生産を支援しています。ところが、2020年6月以降、クレジットの価格が非常に高騰しており、購入量を制限せざるを得ない状況になりました。現在は、コンシューマー商品については消費者啓発の観点から100%の認証率を維持し、企業向け商品についてはお客様のご要望に応じてクレジットの購入をしています。この価格高騰については一社のみでの解決は難しいため、

関連企業や団体と密に情報交換しながら解決策を模索していきます。

また、RSPO認証の普及には、全生産量の約40%を占める小規模農家の認証取得が課題だと言われています。この支援のため、サラヤでは、2017年から小規模農家の発行する「IS認証クレジット」を積極的に購入しており、2024年も396トン分の小規模農家の発行するクレジットを購入しました。



RT2024の基調講演の様子

RT2024の基調講演におけるサラヤの取り組みの紹介

2024年11月に、タイのバンコクで開催されたRSPOの年次会議RT2024において、RSPO初代事務局長のテオ・チェンハイ氏による基調講演では、RSPOの20年に渡る歴史を振り返るとともに、サラヤが取り組んできた緑の回廊プロジェクトなどのボルネオの環境保全活動を、RSPO会員による優れた取り組みのひとつとして、世界中から集まったステークホルダーに向けて紹介されました。

今後のRSPO認証原料調達方針

2030年に向けて、ブックアンドクレーム方式も含めて再び100%の認証率を目指すとともに、セグリゲーションやマスバランスなどのフィジカルな認証原料の購入を推進し、調達割合を向上させていきます。また、海外を含めたグループ全体でのRSPO認証油の使用を拡大していきます。

セグリゲーション



セグリゲーションはアブラヤシ栽培から加工、流通などすべての工程で、他の非認証油と混合されことなく管理し、栽培から加工、流通まで環境や労働者への配慮が適切に行われて生産されていることがRSPOによって認証された原料です。ハッピーエレファントシリーズの一部の商品に使われています。Identity Preservedは1農園原料のみを使用したもの。



ブックアンドクレーム(クレジット)



生産者が認証パーム油の生産量に基づいてクレジットを発行し、それをメーカーが購入することで持続可能なパーム油に貢献することができます。2016年まではこの取引システムが民間企業に委託されていましたが、2017年1月よりRSPO認証制度直轄の運用に変更され、マークが変更されました。



日本市場への更なるRSPO認証の普及に向けて

RSPOへの日本の加盟団体数は300団体以上(2025年4月現在)となり、世界でも4番目に多い加盟数となっています。2019年には、日本の小売、消費財メーカー、NGOなど18団体で、日本市場にRSPO認証油を普及させるためにJaSPON(Japan Sustainable Palm Oil Network)を設立し、サラヤも理事企業として設立から参

ワイルドアジアのSPIRALプロジェクトを支援

生物多様性や気候変動に配慮した農業モデル

ワイルドアジアは、2003年に設立されたソーシャルエンタープライズで、マレーシアを本拠とし、熱帯雨林の保全や小規模農家のRSPO認証を推進する支援活動として、Wild Asia Group Scheme(WAGS)を進めています。サラヤは、2017年より、WAGSを通じて、小規模農家からRSPO認証のパーム油とパーム核油のクレジットを購入し、活動を支援しています。

ワイルドアジアは、小規模農家のRSPO認証取得だけでは十分なインセンティブになっておらず、従来の農法は高価な化学肥料に依存しており、農園の生物多様性も損ねていると指摘しています。そこで、新たな農法による農家の生産性向上、農地の生物多様性向上、気候に配慮した農業を支援するSPIRAL(Small Producer Inclusivity & Resilience Alliance)プログラムを2020年より開始しており、サラヤは現地(マレーシア・サバ州)を視察し、この趣旨に賛同して2022年12月より支援を始め、プログラムの進捗状況を定期的に視察しています。

現在、アブラヤシの葉は使い道がなく、切り取った後は土壌に放置し、微生物により分解されている状況です。微生物による分解でも、温室効果ガスが発生します。このプログラムでは、未活用の葉を炭化させて、バイオ炭として有機肥料と混ぜてから土壌に施用することで、炭素の固定や土壌改善に取り組んでいます。バイオ炭は、土壌への有効な炭素貯留方法として、日本を含め世界的に注目度が高まっています。



空果房の乾燥施設を視察



施用開始前後(1年間)の土壌比較(左:今回、右:開始前)

画しています(2025年4月現在は51団体)。2025年度からは副理事長として活動しています。

RSPO認証油の普及には、一企業だけではなく、JaSPONのような団体が会員各団体と協力して取り組むことが重要です。今後もJaSPONの一員として、日本市場へのRSPO認証油の普及に貢献し続けます。



スパイラルに参加する小規模農家とワイルドアジアのチーム



炭化させたアブラヤシの葉(写真左)とバイオ炭混ぜ込み(写真右)

2024年末のサラヤ社員による視察時には、アブラヤシの空果房の乾燥設備が導入されていました。搾油工場から譲り受けた空果房を乾燥させ、バイオ炭にすることで生産量拡大を進めています。

プログラム開始から1年前後で、混ぜ込んだ土壌が黄褐色から黒色化し、ミズも増加するなど、土壌が改善していると報告を受けています。(左図参照)

土壌の改善状況については、現状は定性的な情報が中心ですが、各種分析も実施中で、今後SPIRALプログラムの有効性を更に検証していく予定です。

現状ではこのプログラムに賛同して間接的に支援している段階ですが、将来的には本プログラムで生産された原材料のサプライチェーンを繋いで自社製品への活用も模索していきたいと考えています。また、生産者や環境にとってもメリットの大きいロールモデルであるため、こうした取り組みを発信することで支援企業の輪を広げ、アブラヤシ産業の持続可能性の向上に貢献していきたいと考えています。

02 容器のプラスチック削減への取り組みの歴史

サラヤは創業時から環境のことを考え、天然素材を用いた商品づくりをコンセプトに様々な商品開発・販売を行っており、プラスチック問題についても積極的に取り組んできました。



様々な施策でのプラスチック削減への取り組み

創業商品から省資源化を実現

サラヤは1952年、日本ではじめて薬用手洗い石けん液「パールバーム石けん液」と石けん液容器を開発・事業化しました。使用時に水で7~10倍に希釈する省資源型で、当時からすでに環境を考えて作られた画期的な商品でした。



プラスチック削減への取り組み

包装と容器が一体になったB.I.B.(バッグインボックス)システム

プラスチック製ボトルの代わりに、薬剤の入った内袋を段ボール箱に入れて使用するB.I.B.システムへの切り替えを進めています。



減容ボトル

「事業所のごみの容量を減らしたい」という医療現場のお客様の声から、ハンドソープ容器を改良。形状の工夫と、容器自体を薄くすることで折り畳んで捨てられるようになり、ごみの容積を約70%削減。また、従来のボトルに比べ約50%のプラスチック使用量削減になりました。



使用済みボトルの水平リサイクル

資源循環型社会の実現に向け、業務用の使用済みボトルを新たなボトルとして再生する水平リサイクルを実現しました。これまで廃棄されていた使用済みボトルをお客様から回収し、資源として再利用する生産体制を構築しました。



PEボトル循環サイクル構想

紙パック詰替商品の開発

当社は現在、プラスチックパウチ詰替容器を採用しております。近年増加傾向にあるエコ消費ニーズに応えるため、『アラウ・ベビー泡全身ソープ800mL詰替用』などの一部商品から紙パック詰替用への変更を開始しています。



未来の自動手指消毒ディスペンサー PROTEGATE EXPO2025

海洋保全の啓発を目的に、長崎県・対馬に漂着した海洋プラスチックを外装に用いた自動手指消毒ディスペンサーを開発し、2025大阪・関西万博の休憩所とNPO法人 ZERI JAPANが出展する「ブルーオーシャン・ドーム」に設置しました。

誰が見ても用途が一目で分かるピクトの表示と、大人も子どもも使用できるよう2種類の高さを備えたユニバーサルデザインのディスペンサーです。液剤やバッテリーの残量が分かるIoT技術も搭載し、機器のメンテナンス作業を省力化できるようにしました。



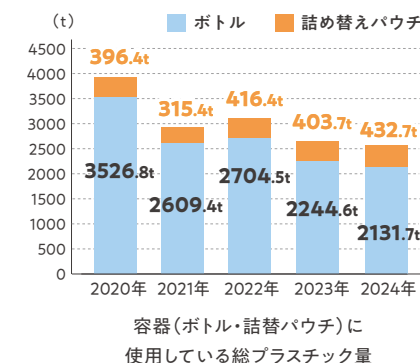
PROTEGATE EXPO2025



対馬市の海岸の状況

容器の資源循環に向けた取り組み状況

ボトルや詰替パウチとしてのプラスチック総使用量や、神戸プラスチックネクストつめかえバックリサイクルプロジェクトへの参画での自社詰替パウチも含めた共同回収量などについては随時モニタリングしています。マテリアルフローを更に詳細にモニタリングできる体制を整え、まずは2025年度までの中期目標の達成と、2030年度までの長期目標の具体化に向けて、各種施策の実施を進めていきます。



▶ 2030年までの中長期方針

- 2025年度 中期目標
 - 容器のプラスチックの使用量を、薄肉化や詰替パウチへの置き換えにより、全てを従来のボトル(2019年基準)で生産した場合と比較して累積25%以上(重量ベース)の削減を目指す。
 - 生産に使用する容器の70%以上(重量ベース)をリユースもしくはリサイクル可能とする。リサイクルが難しい場合でも、熱回収可能性を担保する。
- 2030年度 長期目標
 - 2019年比で再生材の利用を増進する。
 - 産学連携での新素材の開発・実用化を目指す。
 - 自社グループ内における連携で、自社商品を含む廃プラスチック回収の枠組みを確立する。
 - 業界の垣根を越えたプラットフォームへ参画し、多様なステークホルダーとの協働でプラスチック資源循環に取り組む。
 - 各種の資源循環の取り組み施策については、ライフサイクル全体で捉えたCO₂排出量も指標として加えて評価するよう、評価方法の検討を進める。

※大阪ブルーオーシャンビジョンが示された2019年を基準年とする。
※2025年度時点での実績を元に、2030年以降の中長期方針の見直し、新たな定量目標の設定等を行う。

多様なステークホルダーとの協働による資源循環への取り組み

株式会社アールプラスジャパンへの資本参加

2020年6月から事業開始した共同出資会社「株式会社アールプラスジャパン」に資本参加しています。アールプラスジャパンは、米国のバイオ化学ベンチャー企業であるアネロテック社(Anellotech Inc.)とともに、環境負荷の少ない効率的な使用済みプラスチックの再資源化技術開発を進めます。従来のケミカルリサイクル技術と異なり、油化工程を経ずに1回の変換でプラスチックの粗原料を

生成できるため、CO₂排出量や必要エネルギー量の削減が期待されます。

世界共通課題である廃プラスチックの課題解決に、新たな再商品化技術で貢献すべく、プラスチックに関わるバリューチェーン各社の業界を超えた連携により、2030年までに日本で年間20万トン規模のプラスチックの再生を目指しています。

R PLUS JAPAN

アールプラス
ジャパンの
HPはこちら



03 エジプト・チュニジアでの取り組み

▶ 植物由来の素材を活用したサステナブルなビジネス開発

商品を購入・使うほど環境保全活動へ貢献できる仕組みをつくり、お客様と一緒に持続可能な社会を目指しています。



ホホバオイルのビジネスを通して社会課題を解決

様々な可能性を秘めたホホバオイル

エジプトのスエズ運河沿いにあるアインソクナ経済特区内で、サラヤ・ミドルイースト(株)の工場が完成し、2023年11月に生産を開始しました。この工場ではホホバオイルが搾油できる製造設備を導入しています。サラヤは化粧品原料となるホホバオイルの販売を通じて、過酷な砂漠でも育つ植物であるホホバの植林を砂漠の緑化につなげる事を目指します。また、2017年より先行している大阪大学発のベンチャー企業「株式会社シモンド」との協働でホホバの生産性の高い品種改良が進み、ホホバオイルのコストダウンが実現すれば、化粧品原料としての活用のみならず、農業用防虫剤、機械油等、様々な可能性を秘めています。これら用途開発については、2021年よりサラヤの支援の下、カイロのエジプト日本科学技術大学にて具体的研究が始まっています。

2023年11月に稼働を開始したアインソクナ工場では、エジプト市場をターゲットに、ホホバオイルの原料と医療用再処理酵素洗浄剤の生産を開始しました。また、2024年2月にラカントの生産を開始し、エジプト国内向けの販売会社、サラヤ・エジプト(株)、ドバイの販売会社、サラヤ・ミドルイースト・トレーディング(株)を通じて、エジプトとドバイへの製品供給を開始しています。また、2024年6月には、エジプト統一調達・医療品・医療技術管理庁(UPA)と「医療用ニトリルグローブ供給に関するMOU」を締結しており、2025年1月よりエジプトの公立病院向けにニトリル手袋の供給を開始しました。



エジプトのサラヤ・ミドルイースト



ホホバ製造エリア(写真上)と
ホホバ実(写真下)

株式会社シモンドの
ホホバ果樹園

オリーブ油を通じたチュニジアの産業育成

チュニジア産製品の拡販に向けた取り組み

アフリカ北西部マグレブ諸国の一つであるチュニジアでは、古くからオリーブ油の生産が盛んにおこなわれてきました。地中海に面し、年間晴天日数300日を超えるチュニジア産オリーブ油は、その気候のおかげで欧州産に比べてポリフェノールが10倍~20倍含まれているといわれています。しかし、その加工技術やボトルリング技術の問題によりバルク(包装・梱包せずそのままの状態)で輸出され、欧州産のオリーブ油等とブレンドされた後、市場に出されます。その為、チュニジア産オリーブ油は低価格での取引が一般的であり、チュニジア農家の収入も低レベルにおさえられてきました。そこでサラヤは、オリーブの実の収穫から搾油までを最適に管理する技術やノウハウに関する教育、高付加価値製品として販売するためのボトルリングなど商品開発を進めることで、「持続可能な産業育成」、「地域間格差是正」、「失業対策」並びに「国内産業振興を担う人材育成」に貢献しています。サラヤ・ナチュラルプロダクツ・チュニジア(株)では首都チュニスから南東30Kmの位置にあるエルファジャ工業団地に工場を建設し、チュニジア産オリーブ油のボトルリングに加え、関連会社サラヤボテ・エ・サンテが抽出した各種エッセンシャル・オイルを用いた香水・化粧品類を製造しています。2025大阪・関西万博において、NPO法人 ZERI JAPANが出演する「ブルーオーシャン・ドーム」で実施した「SARAYAウィーク」では、サラヤボテ・エ・サンテで蒸留された高品質のチュニジアンネロリの精油を使用したオーデコロンを来場した招待者に配布いたしました。



サラヤ・ナチュラルプロダクツ・チュニジア



オイルタンク

オリーブ畑と実

04 「ソホロ」が創る未来の製品

サラヤでは「ソホロ」に眠る未知の可能性を追求し、人と環境にやさしい製品づくりを続けています。



発酵生産でつくるサラヤの独自成分「ソホロ」

「ソホロ」とは

バイオサーファクタント(以下、BSと略)は、細菌や酵母など微生物が産生する両親媒性物質です。BSは環境適合性に優れ、且つ、高い界面活性を示します。さらに、BSはその製造工程が発酵生産、すなわち、バイオプロセスであるため、化学合成反応によって製造される合成界面活性剤と比べてLCAの観点においても注目を集めています。

ソホロリビッド(以下、SLと略)はBSの一種であり、親水部分に糖質(ソホロース)と疎水部分に脂質(脂肪酸)を持った構造を有します(図1)。当社は、SLの発酵生産に関する研究を進めた結果、独自の発酵生産技術を見出し、SLを工業化レベルで安定製造する技術を確認しました(図2)。それは、常温常圧下での発酵生産を可能とし、さらに炭素源である疎水性基質(油)のすべてをSL生産に利用できる生産

効率性の高い製法です。また、有機溶剤を使用することなく分離・精製でき、SLの一連の生産工程は環境に対して低負荷な製法です。現在では、主原料として使用するパーム油を環境と人権に配慮されたRSPO認証パーム油を用いて発酵生産することも可能になりました。

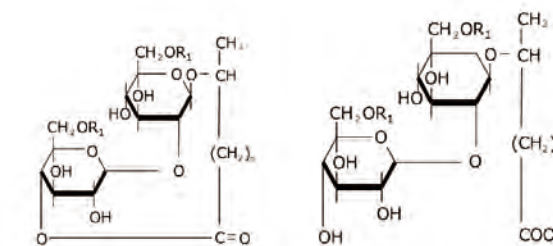


図1 ソホロリビッド(SL)の構造
(R1=Ac or H n=13~15) (A:ラクトン型 B:酸型)

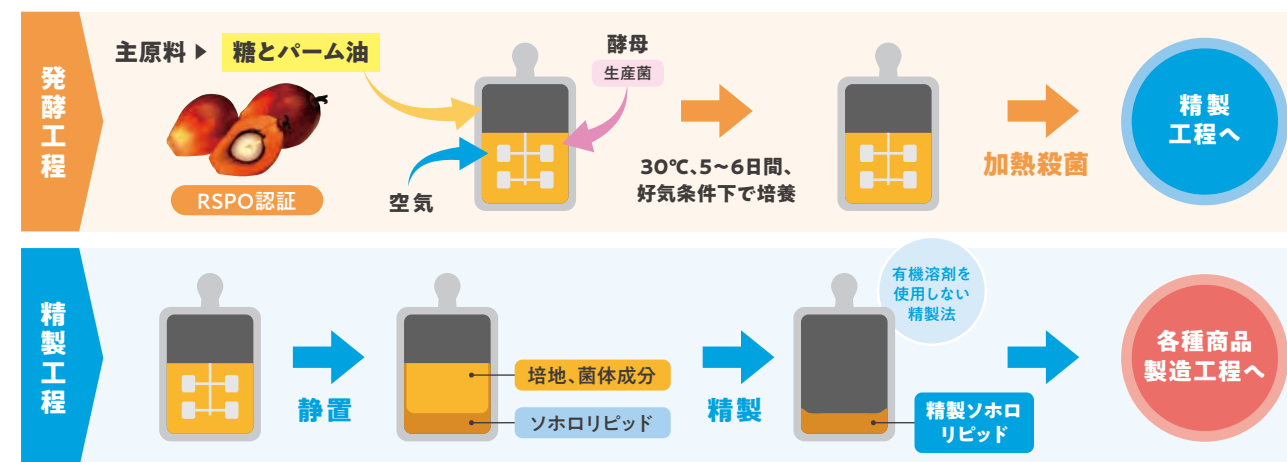


図2 ソホロリビッドの発酵工程と精製工程 ※製法は伝統的バイオテクノロジーである発酵技術。常温・常圧かつ有機溶剤を使用しない製法。原料調達地から製造プロセスに至るまで環境配慮。

ソホロの特性を活かした製品開発

SLはラクトン型と酸型の混合物であり、また、その複雑な構造から合成界面活性剤にはない性能を有することが期待されます。

当社は2001年に国内初のSLを配合した製品「ソホロン」を上市しました。これは、SLが低起泡性、高洗浄性、易生分解性そして水生生物に対する毒性が極めて低いSLの特徴を活かした製品開発研究の成果でした。その後もSLの水溶液中での安定性を改善した酸型ソホロリビッド(酸型SL)を開発することでSLの液体タイプ製品(ハッピーエレファント、パワークイックなど)への配合を可能としました。さらにはSLの精製度を高めた高純度酸型SLの開発にも成功し、SL原料の多様化と高度化を達成したと同時に、SLの吸着抑制効果や高い生体適合性、経皮吸収促進能などSLの多機能性

が明らかになることでSLの用途はリープオン化粧品(ラクトフェリンラボ)や再生医療分野(SOFORO Cryo)へ展開されています。

さらなる用途の拡大へ

以上、当社は環境に配慮された独自のSL製造法を見出し、SLの様々な界面化学的特性と人と環境への適合性を明らかにしてきました。このような独自性ある当社のSLは「SOFORO」として商標取得済みです。SOFOROは自社製品への配合にとどまらず、除染作業の一環として道路洗浄への使用やバイオレメディエーションへの活用など幅広く展開されています。最近では廃食油や海藻由来のSOFORO生産と応用に関する技術の確立に向けて研究を進めています。今後もSOFORO研究と製剤化研究を推進し、持続可能な社会へ貢献していきます。

03 Health

健康

製品とサービスを通じて、
すべての人々の健康で
文化的な生活を
支えます。

世界の健康づくりに
貢献してまいります。

感染症の予防に貢献する
商品開発を原点とするサラヤが、
創業から続く「予防」の理念を
「生活習慣病の予防」へと発展させ、
食生活の改善に貢献する
天然甘味料の開発に着手したことが、
サラヤの健康食品開発の第一歩です。

サラヤは健康食品においても
人と地球にやさしい
原料・機能・効果を徹底してこだわり、
地道に研究・開発を推進。

次代に向けて、自然派のサラヤは
食と健康の新しい提案に挑戦し続けます。



01 Farm to Table

生活習慣病予防への貢献を目指したサラヤの挑戦



創業者と羅漢果に関する思い

羅漢果(ラカンカ)との出会い

ラカントシリーズの原料である羅漢果は、中国チワン族自治区の桂林市永福県付近に自生していたウリ科の植物で、主に桂林市で栽培されています。サラヤは1990年代から羅漢果研究を開始し、1998年に中国桂林市と共同ビジネスの契約(羅漢果甘味料開発プロジェクト覚書調印式)を交わしました。現在でこそ中国は経済大国になりましたが、当時の桂林における農民の生活環境は想像以上に厳しいものでした。この環境を見た創業者は「羅漢果は桂林で栽培される植物だ。日本の企業が進出して、これを独占してはいけない。厳しい農民生活の貧困をなくし、桂林市を活性化させる羅漢果プロジェクトを立ち上げよう」と決断しました(SDGs開発目標3と8)。その後、サラヤは羅漢果抽出物および製法に関する特許登録は日本国内だけとして、国際的には登録せずに技術開放しました。

近年では、植物素材でカロリーゼロの甘味料ニーズは世界的に拡大していますが、これがそのはじまりです。特に「シュガーフリー」が食品のキーワードとなっているアメリカでは、安全性の高い植物由来の甘味料への関心が高く、羅漢果は「MONKFRUIT(モンクフルーツ=僧侶のフルーツ)」という呼称で親しまれており、健康志向の高いユーザーからの需要が高まっています。



桂林市との調印式



中央が創業者更家章太、その右が更家悠介(1998年当時)



サラヤ契約農家の羅漢果栽培地(写真左)と羅漢果の花と羅漢果の人工授粉(写真右)

安心・安全な食を提供する品質管理

桂林工場(桂林莎羅雅生物技術有限公司)
右の建物が製造棟 左は管理棟

大阪工場 食品安全チームメンバー

FSSC22000認証取得

サラヤは、羅漢果の栽培過程から、多くの農家と契約を交わし、厳しい農薬管理のもとで栽培しています。サラヤが2015年に桂林市に設立した桂林工場(桂林莎羅雅生物技術有限公司)では、高品質で安心・安全な羅漢果抽出物を製造し、羅漢果栽培、羅漢果抽出、末端商品であるラカントブランド製品に至るまで徹底したトレーサビリティのもとで製造しています。近年、アメリカをはじめとする世界各国からラカント製品の需要が増加したため、2022年には桂林工場の拡張工事を実施し、前年度よりも生産量を倍増させました。桂林工場では2020年9月、大阪工場では2021年6月に食品安全認証の国際規格であるFSSC22000(Food Safety System Certification)を認証取得しました。FSSC22000を認証取得することにより、食品安全のマネジメントシステムを強化し、国内外の消費者へ安全・安心な食品を提供して参ります。

日本初のカロリーゼロの植物由来甘味料

「ラカント」開発の背景

洗浄剤や消毒剤などを製造・販売するサラヤがカロリーゼロの甘味料を開発した背景には、創業から続く「予防」の理念があります。創業当時、流行する感染症を防ぐために手を洗うと同時に殺菌・消毒ができる薬用石けん液「シャボネット」を開発したように、高度成長期に糖尿病をはじめとする生活習慣病が増加した際、生活習慣病予防に対する食生活のニーズに合わせて開発したのが、カロリーゼロの植物由来甘味料「ラカント」です。今では、当たり前に見かけるカロリーゼロの甘味料ですが、実は世に初めてゼロカロリー甘味料として製品化されたのがラカントです。開発コンセプトは「植物由来」、「糖類ゼロ」、「カロリーゼロ」、「使用量の重量換算不要」、「加熱料理にも使える」など、使う人の安心と利便性を考慮したものでした。

また、ラカントを発売する中で、多様化する甘味料へのニーズに応えるため2024年にW機能(機能性表示食品)でカロリーゼロのプレミアム甘味料「ラカント アルロースブレンド」を新発売しました。本製品は、ラカントでも使用されている高純度羅漢果エキストと希少糖「アルロース」で作られたW機能の機能性表示食品です。アルロースが「日常生活(安静時や日常活動時)のエネルギー代謝において脂肪の燃焼を高める」および「食後血糖値の上昇をおだやかにする」ことが報告されています。



ラカント アルロースブレンド

原料調達から商品化、食卓まで安心をお届け

ラカントは、カロリーや糖質などの摂取制限のある方だけでなく、ダイエットや美容・健康に関心の高い幅広い層に広がってきました。さらに、近年では、世界的に化学合成による甘味料が敬遠されるようになったことから、植物素材でカロリーゼロの甘味料のニーズが拡大しています。特にアメリカではこれまでも、砂糖の代わりに使われる代替甘味料が多く使われてきましたが、安全性の高い植物由来の甘味料に関心が集まり、長寿の神果として古くから健康に役立つ原料としても親しまれてきた果実「羅漢果」からつくられたラカントの需要が大きく伸びています。

このような背景から、サラヤはアメリカ・ユタ州にて建設を進めていた「Saraya USA Lakanto factory」を2023年3月に開所しました。本工場は、約12000平方メートルの広大な敷地を有し、フロントオフィス、製造設備(ミキシングからパッケージング)、原料と最終製品の倉庫、品質保証室などで構成されています。



Saraya USA Lakanto factory

ラカントブランドのアンテナショップ
「神宮前 らかん・果」

「神宮前 らかん・果」は、ラカントと天然素材を最大限に活かすことで、からだにやさしいお食事をご提供するカフェ&ダイニングです。調理に砂糖は使用せず、カロリーゼロの植物由来甘味料ラカントを使用することで、通常のお食事より糖質を抑えたメニューをご用意いたします。旬の食材をふんだんに使用したおぼんざいランチは、糖質40g以下。気兼ねなくお召し上がりいただきながら、糖質を抑えられる、からだにやさしいメニューです。ディナーはアラカルトメニューに加え、コースを通して糖質40g以下のロカボコースもご用意しています。

コース料理で糖質40gの
「ロカボコース」▶

※2025年10月閉店予定、一部公式通販で商品販売予定

ファンマーケティングとDX

WEB・SNSを活用したプロモーション

日本のラカントプロモーションでは、20年前からブランドの成り立ちや商品特徴を丁寧にコミュニケーションすることで「顧客」ではなく、「ファン」を作り、「ブランドカルチャーの共創」を図る「ファンマーケティング」を行ってきました。そして10年前からDXを推進し、WEBやSNS、インフルエンサーを活用したコミュニケーションとプロモーションを行ってきた結果、ここ数年のSNS環境変化からファン自身がブランドに関する情報発信を行うことで新たな顧客を獲得するという流れが加速してきました。

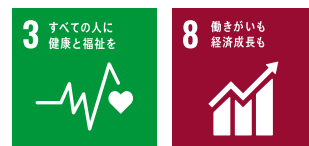
一例としてはコロナ自粛の折、数多くのファンたちだけではなく、影響力のあるYouTuberや料理研究家、管理栄養士、シェフ、パティシエ、アイドル、インフルエンサーなどもラカントファンとしてレシピ動画を投稿してくれています。現在、ラカントのSNSアカウントは日本の食品アカウントの中でも上位にランクされる存在になりましたが、今後も丁寧なコミュニケーションを継続していきます。

20代、30代の女性から支持を集めるラカント
公式Instagramラカント公式
Instagramはこちら▶
ラカントを使用したレシピを紹介

02 アメリカにおける健康ビジネスの拡大

▶ 健康志向とサステナビリティをキーワードとした事業強化

健康志向が強いアメリカでは、オーガニック食品や自然食品など健康食品の需要が拡大し、「健康」をキーワードとした商品が注目を集めています。多様なニーズの高まりに答えるべく、現地工場を設立し、健康的な生活を支援しています。



きのこ事業から進化したメニューで健康的な生活をサポート

アメリカでのきのこ事業の展開と社会的インパクト

地球温暖化や水不足など世界で深刻化している課題を背景に、アメリカにおけるプラントベースフード(植物由来の原料で作られた食品)の市場規模は拡大しており、2050年には1兆5千億ドルになると言われています。課題解決に向けてサラヤはきのこに着目し、2021年10月にChagaroot, Inc.をアメリカ・ラスベガス州に設立しました。きのこは栄養価が高く、きのこに含まれる栄養素は、疲労回復、生活習慣病予防、免疫力を高める効果が期待できます。現在Chagaroot, Inc.は、きのこ肉を使うことでバランス良く栄養が摂取できるデトックスを意識したメニューのバーガーやスムージーなどを販売するレストランを運営しています。また、小売り向けに、タンパク質が牛肉と同等以上の、きのこのプロテインパウダーなどを販売し、栄養を補い食生活をサポートするべく、調理済み食品を定期的に宅配するサービス(Cleanse Nourish Thrive)を展開しています。サステナブルで厳選した食材を使ったメニューの提供を通じて、Chagaroot, Inc.は地球にやさしく、人々の健康的な生活を支える企業を目指します。



▲ Chagarootレストラン

肉の代替品としてきのこを活用。日常的に食されるバーガーやスムージーにきのこを使用することで、健康的な生活へとリードします。

※2025年6月閉店

砂糖の摂取量減少へのヘルシーフードソリューション

拡大するラカント商品の開発・販売と地域社会への貢献

アメリカ疾病予防管理センターによると、アメリカ人の多くが肥満や不規則な生活を送っており、心疾患、脳卒中、糖尿病などを発症するリスクが上がっています。そのため、健康な身体づくりの「フードソリューション」が求められています。1日推奨摂取量の2~3倍を超える砂糖を過剰に摂取するアメリカで、Saraya USA, Inc.は80種類もの商品(多種の甘味料、シロップ、スナック、グラノーラ、マフィンやパンケーキミックス、チョコレート等)を開発し続け、ラカントで人々の健康生活をサポートしています。

現在はWalmartなどのアメリカの小売り約3万1千店舗がラカント商品を取り扱うTOPブランドにまで成長しました。2023年にはサラヤグループ初の大規模食品工場を開所し、今後も多種多様な商品を通して、北米と南米向けに砂糖摂取量減少へのソリューションを提案しています。また、Saraya USA, Inc. は月間最優秀企業賞や女性活躍賞などの数多くの賞を受賞しており、地域経済に貢献するリーディングカンパニーとしてさらに成長してまいります。



工場稼働当初の現地従業員



ラカント甘味料を使用した菓子(ブラウニー、グラノーラ、チョコレートアーモンド等)



▲ オーガニックスーパーマーケット(Erewhon)ラカント甘味料を使用した商品が多数陳列され、大人気です。

03 東アフリカにおけるフードバリューチェーン開拓事業

▶ 東アフリカの食品衛生市場の創造に向けて

コールドチェーンが未発達なアフリカにおいて、サラヤが日本で培った衛生技術を用いて付加価値のある食品加工と、食品流通システムの確立に挑戦しています。



ケニアでの食品事業開発

Saraya Nairobi Kitchen Lab (通称: シェア・キッチン) の活用

2021年3月にオープンしたシェア・キッチンは、食品事業のインキュベーション施設として多くの新規事業者を支援してきました。これまでに3つの新規事業者が卒業し、独自のレストラン店舗を構えるまで成長しています。また、現地の経済産業省による食品加工機械展示会や食品衛生トレーニング、料理教室、ラカント・カフェ&バーの運営など食品事業の情報発信基地として活用され、2024年末には農水省の日本米の試食会も開催されました。



ケニアのナイロビにあるSaraya Nairobi Kitchen Lab



ラカント・カフェバー

特に2025年大阪・関西万博のプロモーションの一環として開催された「大阪粉もん文化の発信(2023年6月)」は、非常にユニークな試みでした。当日は、たこ焼きの「くれおー」様、お好み焼きの「千房」様にナイロビへお越しいただき、プロの技を披露していただきました。現地向けアレンジを加えた「たこ焼き」と純和風の「お好み焼き」は対照的なアプローチでしたが、招待客約130名のケニア人から大変好評を博し、今後の日本食文化の浸透への可能性を示しました。



2025年大阪・関西万博のプロモーション

サラヤ・ブランドの加工食品で食品産業の発展に貢献

栄養改善と食品ロス削減の実現に向けた取り組み

ケニアは農業国として食料自給率97.4%を達成していますが、流通網が未発達なため多くの食品が廃棄され、食品ロスが深刻な問題となっています。人口の46%が貧困層に分類され、約890万人が極度の貧困状態にあります。背景には生鮮食品の加工・保存・輸送などの中間工程および食品製造業の未整備が挙げられます。こうした中、ケニア政府は国民の栄養改善に向け、養殖業を含む漁業・魚食振興を進め、食糧安全保障とタンパク源の多様化を目指しています。

サラヤはこの状況に対し、現地の食品加工規制をクリアしつつ、日本で培った衛生技術と冷凍加工のノウハウを活かしたコールドチェーンの構築を進めるナイロビ加工工場を設置しました。ここでは急速凍結技術を用い、ナイルパーチ、ティラピア、ナマズを高品質な冷凍フィレに加工し、主にスーパーマーケットで販売。現地で「魚=臭い」とされる中、当社製品は臭みが抑えられ高評価を得ています。2024年末にはケニア国内スーパーマーケット26店舗での販売を実現し、2025年には商品数を10種類に、6月までに販売店舗数を50に拡大予定です。

これらの取り組みを通じてサラヤは、「美味しく、楽しく、健康に。」という理念のもと、魚食文化の振興と栄養改善、食品産業の発展に貢献しています。



ナイルパーチ(左)、ティラピア(中央)、ナマズ(右)の急速冷凍フィレ

04 未来の健康の実現に向けたサラヤの取り組み

▶ 循環器疾病から未来の健康を考える

サラヤは循環器疾病の観点からさまざまな取り組みを行い、未来の病気を予防するため、機器の開発、健康情報の啓蒙に努めて参りました。



サラヤデジタルヘルスケア事業の健康寿命延伸に対する挑戦

病院の検査から未来を自力でみる検査へ

サラヤは兼ねてより循環器疾病の予防に注力してきました。循環器疾病は一度進行すると完治が難しいと言われています。そのためサラヤは早い段階で循環器疾病リスクを発見することに着目し、循環器疾病の原因となる動脈硬化リスクを検査する機器の開発に取り組んできました。

従来の医療従事者による手技を必要とした検査から自力で簡便に循環器疾病リスクを判定可能とする機器の「ViewWave」を開発・展開しています。さらにAIによる疾病解析技術を統合し、未来の循環器疾病発症リスクを予測する機器「健康タイムマシン」を開発し2025 大阪・関西万博で展示体験を行いました。



健康タイムマシン



2025大阪・関西万博における健康タイムマシンの展示の様子



血管のしなやかさを個人で測定可能な「ViewWave」

地域社会へ健康情報を知る機会を

循環器疾病は日本人の死因の上位を占める疾病の一つでありながら、その予防や早期発見に関わる情報は、一般の方々に満足に届いていないのが現状です。サラヤでは、国立循環器病研究センターの医師監修のもと、有識者による循環器疾病にかかわる予防・有効なレシピ・豆知識などの正しい知識やポイントを、イラストや図解を交えわかりやすく解説した「血管TIMES」という冊子を発刊し、健康知識の啓蒙に取り組んでいます。

また地域住民の皆様へ直接健康状態を知っていただく機会として、「ViewWave」を用いた測定イベントを、各地の地方自治体と連携して実施しています。このイベントでは参加者の血管の柔軟性や血流状態などを簡易的にチェックし、その結果に対して簡単なアドバイスをしています。実際にイベントを体験した方からは「数値を見て、生活習慣を見直すきっかけになった」「こうした機会がもっと増えると嬉しい」といった反響をいただいています。

このようにサラヤは健康機器の開発と健康知識の啓蒙と発信を通じて、だれもが健康を享受できる社会の実現に向けて邁進して参ります。



健康情報啓蒙冊子「血管TIMES」



ViewWave測定イベントの様子

▶ 高齢者のQOL向上を目指した取り組み

日本における65歳以上の人口は年々増加しており、高齢者の健康維持が重要な課題となっています。当社は、高齢者の健康の維持・増進に向け、加齢に伴うさまざまな機能低下に対応したケア用品やWebサイトでの情報発信などのサービス(※)を提供しております。

※一部会員専用コンテンツを含む

サラヤ福祉ナビ

URL <https://fukushi.saraya.com/>

サラヤ福祉ナビ
のホームページは
こちら



栄養改善

高齢になると、食べる機能や消化・代謝機能の低下、食欲の低下など様々な身体の機能低下が起こり、栄養状態の悪化を招きやすくなります。特に、高齢者においては身体機能の低下により飲み込む(嚥下:えんげ)機能が衰え、口から食べたものが食道に入らず、誤って気管に入ってしまうことがあります(誤嚥:ごえん)。これらの問題に対し、当社は嚥下補助食品や栄養補助食品などの「食」を通じて人々の健康をサポートします。また、誤嚥を起こしやすい高齢者にとっては、普段の口腔ケアも重要です。



嚥下補助食品

口腔ケア

口腔機能は、捕食(食べ物を口に取り込むこと)、咀嚼、食塊の形成と移送、嚥下、構音、味覚、触覚、唾液の分泌などに関わり、健康な生活を営むために必要な基本的機能です。口腔機能が低下すると、食べられる食品の種類や量が制限され、栄養バランスがとりにくくなり、食事の質が悪化します。その結果、体重や筋量を維持することが困難になり、免疫や代謝等の機能低下にも繋がります。また、口の周りの筋肉が少なくなり動きが悪くなると、容姿や表情が損なわれ、言語的・非言語的コミュニケーション能力が低下します。全身の健康を守り、QOLを向上させるためにも口腔ケアは重要です。



口腔ケア製品

▶ クルクミンと歯周病予防

創業より感染予防に取り組んできたサラヤでは、口腔内細菌に注目し、特に歯周病菌に関する研究を行っています。さらに、歯周病だけでなく全身疾患の予防や改善を目指した商品開発を進めています。

また当社は、オーラルヘルス事業として口腔衛生分野の展開を目指すべく、2017年に「サラヤ本町歯科クリニック」を大阪市に開設。以降、府内に計3カ所の歯科クリニックを運営しています。2018年7月には、歯周病研究において先進的な研究実績のある「大阪大学歯学研究科」とサラヤの産学連携講座として「先進口腔環境科学(サラヤ)共同研究講座」を設立し、口腔環境を整えることで人間の自然治癒力を最大限に生かし、QOL(Quality of Life:生活の質)の向上を目指した研究を進めてきました。その共同研究から生まれた成果物として、歯周病原菌であるPg菌の増殖抑制効果を有する「クルクミン(植物由来原料ウコン抽出物の主成分)」を含有した歯磨剤を開発、発売しています。クルクミン配合の歯磨剤を使った口腔ケアで口腔環境を整え、口腔機能を維持して全身の健康につなげることでQOLの向上を目指します。



サラヤ本町歯科クリニック
SARAYA HOMMACHI
DENTAL CLINIC



04 Society

社会

社会の一員として、ステークホルダー、
企業を取り巻く関係者との絆を築き、
深める努力をしています。

**世界の持続可能社会の
実現に向け、
事業活動を通じて
課題解決に努めます。**

世界の持続可能性について懸念がある中、
事業活動を通して少しでも
その解決に貢献していきます。

グローバルなネットワークを構築し、
国内外に独自の商品や
サービスの提供を行うことで、
事業を発展させます。

そして、サラヤはビジネスを通じて、
地球環境課題、社会的課題への対応を
経営方針の重要事項のひとつと位置付け、
お客様への環境価値提案を通して、
持続可能な社会の実現に貢献します。



01 人権デュー・デリジェンス

▶ 人権デュー・デリジェンスの取り組み

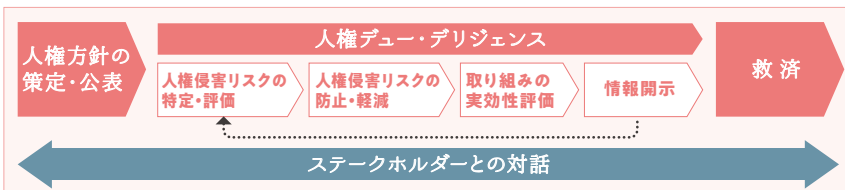
サラヤでは、人権デュー・デリジェンスの実施についてマテリアリティのひとつとして特定し、サステナビリティ委員会の分科会として、部門横断のメンバーで構成される人権デュー・デリジェンス分科会を組織して取り組みを進めています。



人権デュー・デリジェンス

人権デュー・デリジェンスに関する詳細はこちらをご確認ください。▶

「ビジネスと人権に関する指導原則」および「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」等に基づき、人権デュー・デリジェンスのプロセスを構築しています。



人権侵害リスクの特定・評価

サラヤは、当社の事業活動において発生しうる人権侵害リスクを洗い出し、特定された当社およびサプライチェーン上における人権侵害リスクを次表のとおり特定し、また、深刻度および発生可能性に基づき優先的に対応すべき課題を定め、人権侵害リスクの防止・軽減に取り組んでいます。

ステークホルダー	人権侵害リスク	現行施策	改善施策
サプライチェーン	●児童労働や強制労働 ●労働安全衛生 ●希少な原材料資源の搾取	● 認証原料の調達 (RSPO・FSC)	● 調達方針、サプライヤー行動規範の策定 ● 質問票調査の実施 ● サプライヤー相談窓口の設置
従業員	●採用活動における差別 ●非正規雇用者の待遇 ● 外国人労働者の待遇と差別 ●労働安全衛生 ●長時間労働 ●同一労働同一賃金	● 人権方針の公表 ● ダイバーシティ推進方針の公表 ● 階層別研修の実施 ● Eラーニングの実施 ●ストレスチェックの実施 ●エンゲージメント調査の実施 ● 従業員相談窓口、公益通報窓口の設置	● 人権方針の改定 ● 人権方針、ダイバーシティ推進方針の浸透 ● 人権研修の実施 ● カスタマー・ハラスメント対策 ● 相談窓口の多言語対応
お客様・地域社会	●商品への安全・品質 ●商品試験による健康リスク ●廃棄物処理による健康リスク ●責任あるマーケティング ●プライバシーに関する権利	●消費者志向自主宣言 ●ヒト試験/倫理委員会の開催 ●お客様相談窓口の設置 ●公的資金利用研究不正通報窓口 ●ハラル認証の取得	● 廃プラ削減の取り組み ●ユニバーサルデザインの実施 ●個人情報保護方針の公表 ●諸外国における衛生の推進

※**赤字の項目**は深刻度および発生可能性の高いと考える人権侵害リスク、それに対する現行施策と改善策を示します。 ※2024年10月現在

人権侵害リスクの防止・軽減

サラヤは、人権デュー・デリジェンスの推進にあたり、優先的に対応すべき課題について人権デュー・デリジェンス推進計画を立案のうえ、人権侵害リスクの防止・軽減に取り組めます。

	2024年	2025年	2026年～
目標	●人権DDの導入に向けた対応 ●優先度の高い項目への実践 ●取り組みの公表	●優先度の高い項目への実践 ●人権DDの実践と見直し ●取り組みの公表	●関連会社、海外拠点への展開 ●取り組みの公表
人権方針	●人権方針の改定と公表		
人権DD・救済	サプライチェーン	●サプライヤー行動規範の策定 ●質問票調査の実施	●サプライヤー相談窓口の設置
	従業員	●人権方針等の周知徹底 ●カスタマー・ハラスメント基本方針	●人権研修の実施 ●相談窓口の多言語対応
	お客様・地域社会	●現行施策および改善施策の評価と改善	

人権デュー・デリジェンス推進計画(2024年10月現在)

取り組みの実効性評価

2024年は、人権方針の改定と公表およびカスタマー・ハラスメントに対する基本方針の公表を**実施しました**。

※サラヤウェブサイト サステナビリティページ参照▶

実施した取り組みに関して、今後、各種委員会によるモニタリング、アンケート、エンゲージメントサーベイなどにより、実効性の評価を行います。



情報開示

人権デュー・デリジェンスの実施状況については、各種委員会において定期的に報告するとともに、コーポレートサイトやサステナビリティレポート等で適時適切に開示します。

ステークホルダーとの対話

サラヤは、人権デュー・デリジェンスのあらゆるプロセスにおいて、ステークホルダーとの対話を実施し、人権デュー・デリジェンスの取り組みに活かしていきます。

02 多様な個性と能力の活用を目指す人材活用

▶ 多様な人材を活かし新たな価値を創造する

サラヤグループでは、ダイバーシティ推進方針を定め人材活用の取り組みを進めています。



ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の取り組みについて

サラヤでは企業と人材の持続的な成長という観点から、女性、高齢者、チャレンジド(障がいを持つ方)、外国人に活躍いただけるよう、人材の多様性を尊重した組織マネジメントを推進しております。人材は最も重要な経営資源だととらえ、その積極的な活用によりビジネスの推進に結び付けたいと考えています。

サラヤのダイバーシティ推進方針

- サラヤは、多様な人材、多様な価値観により仕事の好奇心や驚きを拡大し、専門性の深みを増し、世界や各事業分野の多様性を拡げ、チーム力により楽しさを創出して、顧客への新たな価値の提供や満足度の向上へつなげます。
- サラヤは、多様な人材と価値観を受け入れ、活用し、また自律した人材としての能力を伸ばしていけるように、従業員に多様性への理解を奨励すると共に、職場環境や育成の仕組みを充実させます。
- サラヤは、ビジネスやCSRを通して、多様な従業員と会社が、ともに力をあわせて成長発展し、地球と、国や地域社会の持続可能な発展の実現に、大いに貢献できる企業を目指します。

INTERVIEW 女性の活躍推進

私は新卒で入社し、大阪工場総務課に配属になりました。当時の管理職に女性は殆どいませんでしたが、各部署で女性が活躍されていました。様々な経験をされた先輩方の意見は、時に厳しいものもありましたが、組織のため、私のために思い意見されており、後々にその意味を理解したことも多くありました。その様な経験もあり、何が最適なのかを考えながら、従来の手法を変える提案や新たな提案を行い、周囲の理解も得られ活躍する場が広がっていったように思います。



その様な経験もあり、何が最適なのかを考えながら、従来の手法を変える提案や新たな提案を行い、周囲の理解も得られ活躍する場が広がっていったように思います。

購買部門へ異動後、育児休業を経て職場復帰。育児短時間勤務制度を活用しながらも仕事と育児の両立は大変でしたが、「短時間勤務でも活躍する管理職のモデルになれば」と当時の上司に励まされ、現在は監査本部の部長という重要な役割を与えられ、周囲の理解と温かい支援をいただきつつ、子育てをしながら仕事に邁進しています。

監査本部
部長

堀江 珠美



外国籍従業員の登用

海外事業本部をはじめとし、サラヤでは多くの多国籍メンバーがあらゆる場面で活躍しています。文化や風習の違う世界各地での事業展開にかかわっています。

障害者がイキイキと活躍できる社会をめざして！

サラヤグループでは、持続可能な社会の実現に向け、障害者雇用を重要なテーマとしています。法定雇用率の遵守はもとより、障害のある方が戦力として活躍できる環境づくりに注力すべく、サラヤグループの特例子会社*である「The Links株式会社」と連携し、「働きやすさ」と「力を発揮できる場」の両立をめざし、DE&Iを推進しています。

*特例子会社：障害者を安定雇用し、親会社の雇用率に算入できる会社



05 ワーク・ライフ・バランスの推進

仕事とプライベート双方の充実が相乗効果や好循環を生む

「ワーク・ライフ・バランス」の考え方に立ち、

支援制度の充実や雇用環境の整備に積極的に取り組みます。



状況に応じて選択できる多様で柔軟な働き方への取り組み

子育てや家族の看護、介護と仕事の両立

サラヤは、従業員一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生のライフステージに応じて多様な働き方を選択できる制度を設けています。具体的には、出産・育児、家族・親の看護や介護などと仕事を両立できる休暇や勤務体系です。

産前・産後の休暇、育児休業、育児短時間勤務、育児時差出勤制度、在宅勤務制度、所定外労働免除、時間外労働・深夜勤務の制限、子の看護等休暇など、子育てを支援する制度があります。産前・産後の休暇以外は、男性にも適用されています。介護を必要とする家族を持つ社員は、介護休業、介護短時間勤務、介護時差出勤制度、在宅勤務制度、時間外労働・深夜業務の制限などによって介護を支援しています。出産・育児と介護休業取得者の実績は下表の通りです。

	女性取得者	男性取得者
産前産後休暇、育児休業	53	17
介護休業	1	1

サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社 育児・介護休暇取得実績(2024年10月末時点)

厚生労働省が実施している「子育てサポート企業」の認定制度のマーク。サラヤは2009年にこの認定を取得し、東京サラヤは2014年に取得しました。



2018年4月よりサラヤ株式会社本社の近隣に、企業主導型保育所「サラヤチャイルドステーション」を開設。2020年2月には、関東工場内に「サラヤチャイルドステーション北茨城」、2022年4月には「サラヤチャイルドステーション伊賀」を開設しました。なお、2025年4月より「サラヤチャイルドステーション北茨城」は、運営委託から自主運営へ切り替わりました。



サラヤチャイルドステーション



サラヤチャイルドステーション伊賀の入園式



サラヤチャイルドステーション北茨城のクリスマスとハロウィンイベント

自己啓発やボランティア活動のための休暇

仕事と余暇のバランスもメンタルヘルスや仕事への意欲の充実のために必要です。仕事と私生活との両方の充実が相乗効果や好循環を生み出します。サラヤでは有給休暇以外にワーク・ライフ・バランス特別休暇として正社員と嘱託社員に付与しています。



みずわクラブ、ヨガ部の活動

仕事のオン・オフのメリハリを付けて、メンバーの皆さんで楽しく汗を流しています。

「みずわ会」の活動

サラヤでは昭和43年「サラヤに職を奉ずるもの全員で相互の親睦と扶助の輪を大きく広げる」ことを目的として、みずわ会が発足されました。みずわ会では、リゾート施設、暑気払い、忘年会の支援等、従業員間のコミュニケーション向上の場として利用されています。なかでも、社内クラブのみずわクラブでは、41クラブ(2025年4月末現在)が活動中で、部署を横断した交流の場として楽しんでいます。

06 いのちをつなぐ学校 by SARAYAの活動

「いのちをつなぐ学校 by SARAYA」は、衛生、環境、健康を

テーマに新しい知識や問いを、生物学者の福岡伸一先生と一緒に、

楽しく学び、考えるプロジェクトです。



“フクオカハカセ”と一緒に、いのちと世界のつながりを考えてみよう

「自分だったらどう考え、どう行動するか。」

私たちの命や感染症に対する知見は毎日のように新しくなっています。また気候変動による災害や、人間の活動による自然環境の破壊は、自分たちの命だけでなく、地球全体の命の問題でもあります。“人々のいのちを守ること”を事業にするサラヤは、新型コロナに限らず、新たなパンデミックや自然災害などに備えるため、感染症や細菌、ウイルスの知識を知ってもらいたいという思いから、このプロジェクトを始めました。特徴は、オンライン上にコンテンツをアップロードしていること。生物学者の福岡伸一さんが校長先生に就任し、「生命とは何か」というお話など、アニメーションで様々な疑問を投げかけています。また、2024年は特別授業として、中高生が福岡校長と一緒にマレーシア・ボルネオ島で様々な課題を学ぶフィールド学習ツアーを実施しました。知識だけではなく「そもそも命とはどういうものか」に興味を持ってもらいたい。一般社団法人

シンク・ジ・アースの「SDGs for School」プロジェクトとも連携し、疑問や問いが学びにつながり、そして学びが将来の生き方に広がってほしいと願っています。

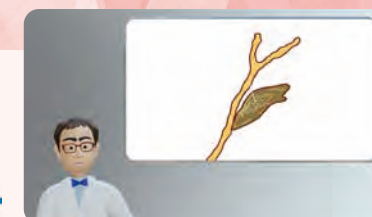
いのちをつなぐ学校 HPはこちら



「いのちをつなぐ学校」WEBサイト 提供コンテンツ

フクオカハカセのセンスオブワンダー

CGに変身した“フクオカハカセ”による楽しいレクチャーです。「生命とは何か」を歴史からひもといて、わかりやすく教えてくれるだけでなく、学ぶことの楽しさなど、生物学者のフクオカハカセが人生で学んだ気づきも伝えてくれます。



探究!いのちのフシギ部

個性あふれる動物キャラクターが繰り広げる、ちょっとコミカルなショートアニメ。素朴なギモンから、最先端の科学の話まで、元気なキャラたちが「いのちのフシギ」を探究していきます。



専門家にきいてみた!

衛生、環境、健康をテーマに、現場で仕事として向き合うプロフェッショナルたちに話を聞くインタビューシリーズ。国連機関、企業、研究者、NPO/NGOスタッフなど、様々な職種の方に登場いただいております。キャリア教育教材としても活用できます。



専門家にきいてみた!

07 社会貢献活動

SDGsの達成には、当社だけの活動では限界があります。活動を推進するにあたっては、地域社会、NGO・NPO、行政・自治体等の皆様とのパートナーシップにより、課題解決に取り組んでいます。



▶ 地域に密着した取り組み

サラヤでは地域社会との共存や地域の皆様とのコミュニケーションを大切に、地域コミュニティの貢献につながる活動を行っています。

取り組みの一例を紹介します。

品川区との協働

東京サラヤでは本社のある品川区での社会貢献活動を推進するため、「しながわCSR推進協議会」に加入し、区と連携して、環境・防災・教育・福祉・地域活動など様々な分野において活動を進めています。

当社が持つ「衛生」「健康」に対する多様なノウハウや機能を活用し、健康づくりを推進。「品川区防災フェア」にて区民の皆様に向けた災害時の感染症対策を推進し、衛生についての教育や清掃美化活動などを行っています。

また、昨年から子供たちが企業の子供社員になってワークショップを運営するビジネス教育イベント「スマイル・ジョブ・アドベンチャー」に参加しています。今年は小学4年生～6年生の合計8人のサラヤ子供社員たちに入社して頂き、約500人の来場者がありました。



品川区防災フェア



スマイル・ジョブ・アドベンチャー

工場見学の受け入れ

地域社会の皆様当社に当社の事業や取り組みへのご理解をいただく活動の一環として工場見学の受け入れを行っています。関東工場では地元小学生が工場見学に来られた際、外国人技能実習生の母国であるミャンマーとインドネシアの文化についての講義も行いました。また、遠方などの理由により現地での見学が困難な場合にはオンライン工場見学にも対応しております。



感染対策に関する啓発活動

サラヤ総合研究所では感染対策に関する啓発活動の一環として彩都バイオインキュベーション施設の一般公開を行っています。今年度はコロナ禍を経て4年振りにリアル開催となりました。ご来場いただいた参加者の方々に手洗いレッスンをし、正しい手洗いと手指消毒の方法、感染予防対策を学んで頂く機会となりました。基本的な感染対策を啓発すべく、有効な情報発信を強化していきます。



▶ 国内外の取り組み

世界の持続可能性について懸念がある中、サラヤの事業目標である世界の「衛生・環境・健康」の向上を通じた解決を目指し、様々な事業を推進しています。またこれらの活動については、国や企業、地域、有識者等のパートナーシップがなければ達成は出来ません。サラヤはNGO・NPOや行政・自治体など関連団体と協働して、ビジネスを通じた社会課題の解決と持続可能な開発目標の達成に貢献しています。

取り組みの一例を紹介します。

タイの子どもたちへの衛生・環境教育

サラヤMFGタイランドでは、2013年から継続的に工場付近の公立小学校や孤児院において子どもたちに正しい手洗いの方法を教える活動を行っています。正しい手洗い手順をダンスを通じてわかりやすく伝え、手洗いの大切さを理解してもらい、感染症の予防に役立つことを目指しています。また、ゴミの分別方法を理解し地球環境を守る一翼を担ってほしいという願いを込めて、楽しく分別を学ぶための『カードゲーム』を用いてプラスチック・紙・缶などを正しく分別する知識を深める活動を行っています。



100万人の手洗いプロジェクト

サラヤの原点、“手洗い”が未だ十分にできない国の一つであるウガンダで、2010年より日本ユニセフ協会と協力して実施しているプロジェクトです。ウガンダ現地での手洗い設備、手洗い普及の教育啓発などを提供しています。対象商品の売上1%（メーカー出荷額）を公益財団法人日本ユニセフ協会に寄付し、ユニセフがウガンダで展開する手洗い普及プログラムに活用されます。



糖尿病と闘うキャンペーンの推進

日本IDDMネットワークは、全国の1型糖尿病を中心とした毎日のインスリン補充が必須な患者やその家族を支援する認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。当団体では、発症初期の1型糖尿病（IDDM）患者と家族を対象に必要な情報を一つのバッグに詰めた『希望のバッグ』を、2014年11月より配布しています。バッグには、発症時に必要な医療情報をまとめた冊子やパンフレット、療養に役立つポーチやストラップなどが封入されています。また、1型糖尿病と同じくインスリン補充が必須な2型糖尿病患者からの要望を受け、『2型糖尿病患者向け希望のバッグ』を2017年12月より配布しています。

サラヤは「ラカントS」を通してこれらの活動を支援しています。

ラカントSシリーズ

「治らない」から「治る」へ
認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク



Safe Motherhoodプロジェクト

WHO（世界保健機構）によると子宮頸がんの死亡者数は全世界で2018年から2030年の間に31万1千人から40万人に増加すると予測されています。アフリカ・ウガンダでの女性の死因第一位も、子宮頸がん。サラヤは2012年より公益財団法人ジョイセフ（JOICFP）を通じ、東アフリカの妊産婦を守る「ホワイトリボン運動」を支援してきました。2018年からは「SARAYA Safe Motherhood Project」でウガンダの妊産婦を感染から守り、子宮頸がん検査を促すと同時に、自立支援につながる職業訓練サービスを開始。サラヤのスキンケアブランド「ラクトフェリンラボ」の売上の一部で、世界の女性の命を守り、自分らしく生きることを支援する活動を行っています。



▶ 外部団体への参加

名 称	内 容	ロ グ
グリーン購入ネットワーク	グリーン購入に率先して取り組む企業、行政、民間団体等の緩やかなネットワークとして設立された「グリーン購入ネットワーク」に1996年に加盟しました。	
特定非営利活動法人 エコデザインネットワーク	モノづくり・マチづくり・地域環境づくりの立場から地球環境問題に取り組むべく設立された「特定非営利活動法人エコデザインネットワーク」に2001年に加盟しました。	
ZERI JAPAN	資源とエネルギーを循環再利用し、廃棄物を0に近づける「ゼロ・エミッション構想」を出発点として、日本における環境教育の啓発と実践、産業クラスター（連環）の構築、循環型社会を実現するために、2001年に「ZERI JAPAN」を設立し弊社社長の更家悠介が理事長に就任しました。	
セーブ・ザ・ チルドレン・ジャパン	子どもの権利のバイオニアとして100年の歴史を持つ、子ども支援専門の国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン」。日本では、1986年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立され、2004年より活動をサポートしています。サポート商品となっている、arau.シリーズおよびarau.ベビーシリーズの売上の一部が活動に使われています。	
認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク	インスリン補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現することを目指す「認定特定非営利活動法人日本IDDM ネットワーク」に2006年に加盟しました。「ラカントS」を通してこれらの活動を支援しています。	
認定特定非営利活動法人 ボルネオ保全トラスト・ ジャパン	マレーシアのボルネオ島で生物多様性保全、熱帯雨林保護の活動を行う「認定特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン」に2008年に加盟しました。パーム油関連ブランドである「ヤシノミシリーズ」、「ハッピーエレファント」、「ココバーム」などの各製品の売上げの1%※が、ボルネオ保全トラスト(BCT)を通じてボルネオ島の環境保全に使われています。(※)メーカー出荷額	
一般社団法人企業と 生物多様性イニシアティブ	生物多様性の保全を目指して積極的に行動する企業の集まり「一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」に2008年に正会員として加盟しました。	
公益財団法人 日本ユニセフ協会	日本ユニセフ協会との共同プロジェクトとして2010年より「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」を実施し、対象となる衛生関連ブランドの売上げの1%※がユニセフに寄付され、アフリカ東部・ウガンダにおけるユニセフの手洗い促進活動の支援に役立てられています。(※)メーカー出荷額	
国際協力NGOジョイセフ	女性のいのちと健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGOである「ジョイセフ」が推進する「ホワイトリボン運動」に、2012年より「ラクトフェリンラボ」の売上の一部が使われています。	
公益社団法人 日本WHO協会	保健医療分野の国連専門機関である世界保健機関(WHO)が実施している活動や有益な情報を多くの人たちに知っていただくという活動を行う「公益社団法人日本WHO協会」に2012年に加盟しました。	
JaSPON (持続可能なパーム油ネットワーク)	パーム油生産における環境面などさまざまな問題を解決することを目指し、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させるために設立された「JaSPON(持続可能なパーム油ネットワーク)」に2019年に理事企業として加盟しました。	
公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWFジャパン)	100カ国以上で活動している環境保全団体で、失われつつある生物多様性の豊かさの回復や、地球温暖化防止などの活動を行なっている「WWFジャパン」の活動を2021年より法人会員として支援しています。	
気候非常事態ネットワーク (Climate EmergencyNetwork, CEN)	既に気候非常事態を宣言した自治体、これから宣言しようとする自治体、2050年ネット・ゼロエミッションを目指す自治体、青少年、市民、専門家、NGO、企業、行政等が自由に交流できるプラットフォームとして設立された「気候非常事態ネットワーク」に発起人代表として加盟しています。	
クリーン・オーシャン・ マテリアル・アライアンス 「CLOMA」	海洋プラスチックごみの問題解決に向け、官民一体となって業種を超えた幅広い関係者の連携を強めてイノベーションを加速するためのプラットフォームである「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)」に2021年に加盟しました。	
地球環境行動会議(GEA)	地球環境問題の解決と持続可能な開発に貢献することを目的としたNGOとして発足された「地球環境行動会議(GEA)」に2022年に加盟しました。	
一般社団法人 ブルーオーシャン・ イニシアチブ	「海」に関わるあらゆるステークホルダーの多面的交流と事業共創を通じ、持続性・実効性ある「海の保全と繁栄」を両立した社会課題解決を目指す企業連合によるブルーアクション・プラットフォームである「一般社団法人ブルーオーシャン・イニシアチブ」に2022年の設立時から幹事企業として加盟しています。	

ステークホルダーコミュニケーション

サラヤではステークホルダー(利害関係者)の皆さまからの期待や要望に応えることが重要と考えています。ステークホルダーの皆さまとの対話をより良い事業活動へつなげるために、さまざまなコミュニケーションの機会を通じて積極的に対話・協働するよう努めています。

▶ ステークホルダーとの対話

主なステークホルダー	主なコミュニケーション機会	主な取り組み
お客様	●営業・販売担当者による直接対応 ●協働イベント・展示会 ●新製品説明会 ●お客様相談窓口へのお問い合わせへの対応 ●ホームページ、SNS等	お客様の声を収集分析し、安心してお使いいただける製品・サービスを提供することが、社会への貢献につながると考えています。ニーズをとらえた付加価値商品やサービスの提案、緊急時も商品の安定供給ができるよう強靱な体制作りを目指しています。
サプライヤー	●SF(サラヤファミリー)会 ※原料納入や運輸関係の企業で構成 ●サプライヤー監査	取扱商品のサプライチェーンの資源の利用状況を把握し、持続可能なサプライチェーンマネジメントの構築を目指しています。
地域社会	●定期的な地域交流会 ●地域貢献活動 ●工場見学	社会からのニーズや期待を理解し、地域社会の皆様とのコミュニケーションを深め、地域社会に貢献する取り組みを行っています。
従業員	●各種研修、個人面談 ●社内報・イントラネット ●内部通報制度	従業員一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働ける職場づくりを目指しています。
行政・自治体	●協定締結、協働イベントや取り組み ●報告会、情報交換	現地ニーズの把握や社会課題解決に向けた連携、健全な関係構築を目指しています。
非営利団体	●協定締結、協働イベントや取り組み ●意見交換会 ●金銭・現品寄付による支援	原料供給地の生物多様性の保全、社会や環境の課題解決に向けた協働・協力支援を行っています。

お客様満足に向けての取り組み

お客様とのコミュニケーション

お客様コミュニケーションの基本的な考え方

フリーダイヤル・HP・SNS関連を取り扱う部門では、適切で分かりやすい情報とサポートを迅速に提供し、お客様との信頼関係を構築することに注力しています。また、お客様のご要望やニーズに応えるために、お客様の声を収集し、お客様の視点に立って真摯に分析し、製品やサービスの持続的な改善に取り組んでいます。さらに、HPでは「家庭の感染と予防」「せいけつ手洗い」といった生活に役立つ情報を提供する一方で、「いのちをつなぐ学校」では、授業で活用できる動画教材の提供や出張授業の受け付けなど、お客様との双方向のコミュニケーションを大切にしています。

消費者志向経営優良事例表彰 消費者庁長官表彰受賞

令和6年度消費者志向経営優良事例表彰に応募し、消費者庁長官表彰を受賞いたしました。持続可能なパーム油の生産・消費に向け、RSPO(持続可能なパーム油に関する円卓会議)に加盟し、日本初のRSPO認証製品を販売。サステナブル調達の重要性や認証ラベルの浸透を図るなど、消費者を巻き込み環境保全に取り組んでいる点を評価いただきました。



マネジメント体制

お客様からのお問い合わせやご要望に対して、適切で分かりやすい対応を行うために、CX部、CRM部、広報宣伝統括部内に各々専門のチームを設けています。さらに、お客様の声を収集・分析し、製品やサービスの開発部門へフィードバックすることにより、継続的な改善を目指しています。また、公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)の研修に参加するなど、お客様への対応方法やコミュニケーションスキルの向上にも積極的に取り組んでいます。

お客様相談部門の主な取り組み

お客様相談部門であるCX部お客様コミュニケーショングループでは、電話やメールなどを通じて適切で分かりやすい情報とサポートを迅速に提供し、お客様との信頼関係を構築することに注力しています。また、お客様の声を収集・分析するCRM部と連携し、製品開発部門・デザイン部門・品質保証部門へお客様の声(VOC)のフィードバックを行い、製品やサービスの持続的な改善に取り組んでいます。CX部ナレッジグループでは、顧客体験(カスタマーエクスペリエンス)の向上のため、「販売店地図検索システム」の改良や「サラヤ家庭用製品Q&A」のWeb上での構築・公開など、お客様が必要とする情報を必要とされる時にご自身で検索できる利便性の高い仕組みをご提供することで、信頼関係の醸成や顧客ロイヤリティの向上を目指しています。

また、「消費者志向自主宣言」の取組方針に基づき、「消費者への情報提供の充実と双方向性の情報交換」を目指し、主に全国のお客様相談部門の責任者が加盟している公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)における会員活動を通じて、大学などの教育機関や消費者センターにおける啓発・交流活動や、消費者団体・消費者との双方向コミュニケーションも行っています。

消費者志向自主宣言

理念

わたしたちは、世界の衛生・環境・健康の発展に貢献すること、持続可能な社会の実現を目指し、グローバルなネットワークを構築し、独自の商品やサービスの提供を通じて、事業を発展させていきます。「いのちをつなぐサラヤ」として安心・安全な商品を提供します。また、当社は社会の一員として、ステークホルダー、つまり企業を取り巻く関係者との絆を築き、深める努力をしています。

取組方針

1. 経営トップのコミットメント

●「世界の衛生、環境、健康の発展に貢献する」を事業目標とし、ビジネスを通して地球環境を守り、資源を持続的に活用し、持続可能な発展と、真の豊かさを実現することを目指すべく全社員への意識向上を行います。

●それぞれの組織の目標と役割を明確にし、執行の責任と権限を付与します。

2. コーポレートガバナンス

●「わたしたちは、お客様からの声を大切にします。そのお客様の声を収集分析し問題点を明確にし、速やかに問題解決を実行します。ステークホルダーと共にシステムの継続的改善を図り、また、利害関係者からの要求事項に対して適切な対応をします。

●わたしたちは、品質・環境関連の法規・条例等の国、地方自治体公布の規則を順守するとともに、国際規約や各種規制について順守・適合を図るように努めます。

●お客さまなど外部のステークホルダーに対しては、「お客様窓口」を設け、様々なご意見をお受けしています。いただいたご意見の中で重要な案件は、役員会などで報告や討議の時間を設け、そのご意見が経営に反映されるよう対応しています。

3. 経営トップの方針と社内浸透

●経営トップから「社長メッセージ」を全社員に毎週発信し、企業文化の醸成と社員の行動規範や意思決定に大きな影響を与えることにより、全社員が持続可能性とお客志向の意識の醸成を行っています。その他、社内ポスターやスローガンパネルの掲出により、社員の意識向上の啓発を行っています。

4. 消費者への情報提供の充実・双方向性の情報交換

●わたしたちは、常に優れた商品の安全性や品質保証のために、商品開発から製造・サービスの提供にいたるまでガバナンス体制を強化しています。お客様の声から、製品の企画立案、設計、生産、販売にいたるまでの過程で品質を作り込み、さらに、お客様からの品質に関する問い合わせに、調査・回答する仕組みを構築しています。

5. 消費者・社会の要望を踏まえた開発と改善

●衛生・環境・健康に貢献することにより持続可能な社会を実現することを踏まえた商品の改善や開発に努めます。また、お客様とステークホルダーの期待に応えるエシカルな商品の開発と、フィランソロフィーを実行できる企業を目指します。

お客様の声を商品に反映した事例

「手指消毒ローション」 へのお声

コロナ禍ではあたりまえであった手指の消毒。アフターコロナの今、義務ではなく「我慢せずに楽しみながら続けたい」そんなお声にお応えて天然精油100%のナチュラルな香りを楽しむとともに、使い心地の良さにこだわった、手指消毒ローションが生まれました。忙しい毎日でも、自分らしく過ごしてもらうために、オンもオフも気分にあわせて選んでいただけるように、複数の香りのラインアップをご用意いたしました。



「ラカントアルロース ブレンド」へのお声

「もっと健康に過ごしたい」というお客様のヘルスケアの向上意欲に応えるべく、Wの機能性をもった新しい甘味料を発売しました。希少糖の『アルロース』と『羅漢果高純度エキス』をブレンドし、砂糖と同じ甘さでカロリーゼロの特徴をもちながらも、「脂肪の燃焼を高める」「食血糖値の上昇をおだやかにする」Wの機能が期待できます。ラカントS顆粒よりも水に溶けやすいので冷たいものにも使用でき、カラメル化もするので調理特性も非常に高い、新しい甘味料です。



機能性表示食品：届出番号11062

「ラクトフェリン ラボ」へのお声

お客様の未来に寄り添うサステナブルブランドとして、「生き方は肌になる、Empower myself」というブランドテーマに生まれ変わりました。主アイテムの「オールインワンジェルセラム」に加え、ご愛用者の方から「ローションにも、付け替えレフィルがあったら使いたい」という大切なご意見をいただいたため、「ブースター モイストローション」にも薄肉で環境にやさしい付け替えレフィル容器を採用。付け替えレフィルご使用で、プラスチック(樹脂)量が84%削減可能となりました。化粧箱にはFSC認証の古紙を採用するとともに、現在廃棄で社会課題となっているホタテの貝殻を用いたジェルセラムの専用スパチュラも新たにラインアップしました。



国連グローバル・コンパクトに加盟

国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、世界的に持続可能な成長を実現するための枠組みです。世界の167の国と地域で25,493団体(2025年4月末現在)が加盟しています。

サラヤは2009年6月に署名・加盟し、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗防止に関する10の原則に賛同し、その実現に向けて、ステークホルダーの皆様と連携を深めて、取り組みを行っています。

内部通報制度

内部通報制度

サラヤグループでは、組織内の不正を早期に発見して企業と従業員を守るため、社内から組織内の規則違反、法令違反行為や不正行為に関する通報・相談を受け付け、速やかに調査し是正につなげる内部通報窓口を設置しています。

内部通報窓口はサラヤグループの従業員に対して開示され、わかりやすい案内や社内窓口および顧問弁護士による社外窓口の設置を行い、通報しやすい体制づくりを行っています。

また通報者に対する不利益な取り扱いの禁止やプライバシーの保護を定める他、内部通報窓口担当者は定期的な研修を受講することで、通報に関する適正な対応が図れるように努めています。

サラヤグループでは、内部通報件数は内部通報制度の実効性を示すものの一つと捉えており、ある程度の通報件数があることが適正と考えています。2024年度の通報内容は規則違反等に関わるもので、調査により不正でなかったことが確認された案件も含む、計3件の内部通報がありました。

これらの内部通報に関わる状況は取締役会において定期的に報告され、その後の再発防止策や予防施策等の推進に繋がっています。

従業員等相談窓口

またサラヤグループでは、社内規則・社内制度やコミュニケーション、職場における人間関係や就労環境についての従業員の個人的な質問や悩み等を受け付ける従業員等相談窓口も設置しています。

こちらの窓口では相談内容に応じて、セルフケアやコミュニケーション等のアドバイス、社内規則・社内制度の案内を行う他、内部通報窓口への誘導によって、従業員の悩み、問題の未然防止と早期解決を図ることで従業員が心身ともに健全に働くことができる職場づくりを促進しています。

サラヤのガバナンス

サラヤは、グローバル・コンパクトの10原則をガイドラインに、社内のコンプライアンス体制を構築し、法令順守や倫理的活動を推進しています。取締役会は、毎月1回のペースで開催し、上述の状況について、経営層へ報告しています。お客様からの苦情は社内規定に従い、迅速で適切な対応を行って参ります。また、お客様からの貴重なご意見に関しては商品開発等、当社の会社経営に反映して参ります。

また、情報セキュリティ、法令順守等、年に1回以上従業員に対して教育訓練を実施しコンプライアンス体制の強化に努めています。

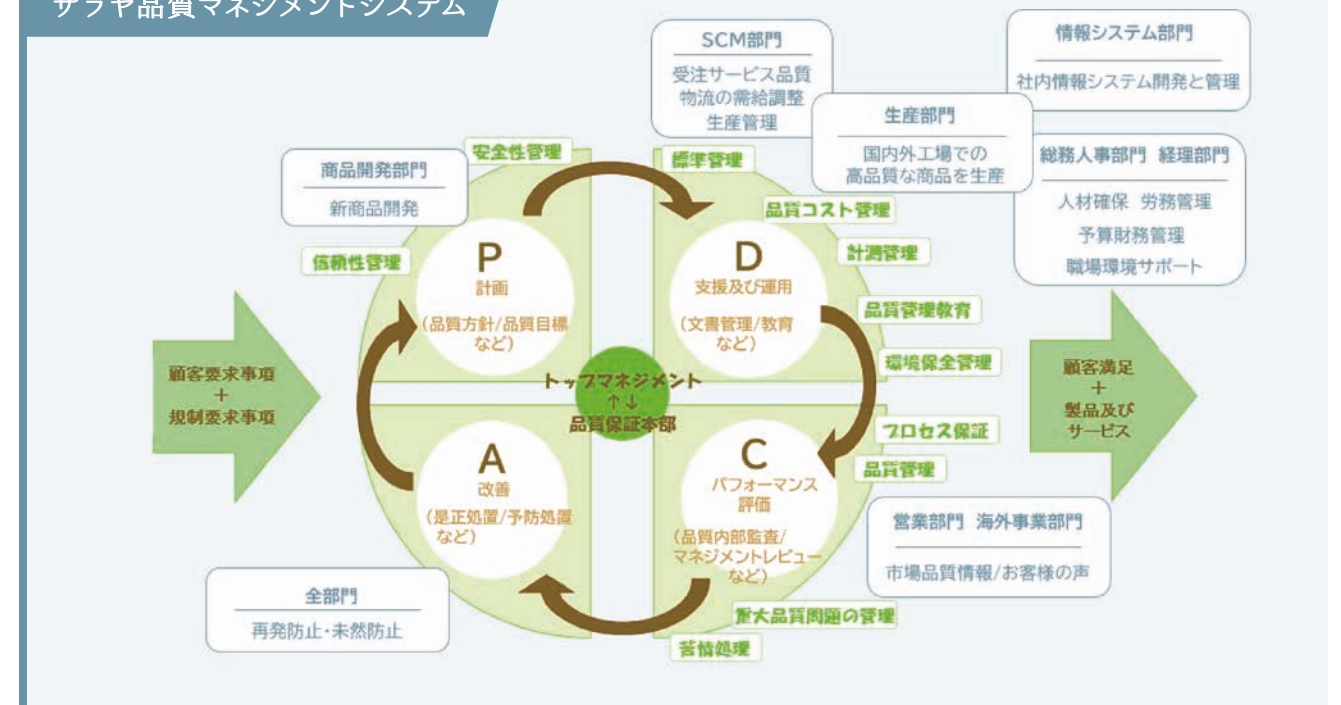
品質保証本部基本方針

「お客様目線に立った品質第一主義を貫く仕組みと活力ある風土、品質に関わる人材の継続的な育成を目指す」

品質保証の取り組み

全社横断的に各主要プロセスの品質保証上の課題について、安全性および信頼性の管理を協議、検討します。さらに、品質リスクの抽出により、品質問題の未然防止に向けて改善を行います。そのため、ISOをベースとした品質マネジメントシステムのもと、顧客満足の上と品質問題(苦情、品質トラブル等)の再発防止を達成するため、関係部門との協業により下記の品質保証推進体制にて取り組んでいます。

サラヤ品質マネジメントシステム



顧客満足の向上

お客様の声を大切にします

お客様の声を収集分析し問題点を明確にし、速やかに問題解決を実行します。また、利害関係者からの要求事項に対して適切な対応をします。安心・安全な商品を提供し、顧客満足度の向上および規制要求事項の遵守を目指します。

品質マネジメントシステムの構築

ISO認証およびMDR認証

1999年に大阪工場ですべてISO9002の認証を取得。その後対象部門を広げ、2001年に全社でISO14001、2002年には全社でISO9001を取得しました。また、1970年代から食品衛生インストラクターによる衛生支援管理を行っており、2008年にはサービス提供者として国内で初めてISO22000を取得しました。現在では、医療機器の規格ISO13485や、欧州医療機器規制MDRを含め、右記の認証を取得し、顧客満足の向上と品質問題への取り組みを行っています。

認証情報

- ISO9002 1999年
→ ISO9001 2002年12月～
- ISO13485 2006年12月～
- ISO22000 2008年12月～
- MDD 2020年5月～
- FSSC22000 2021年6月～
- ISO14001 2021年11月～自己認証
- MDR 2024年8月～

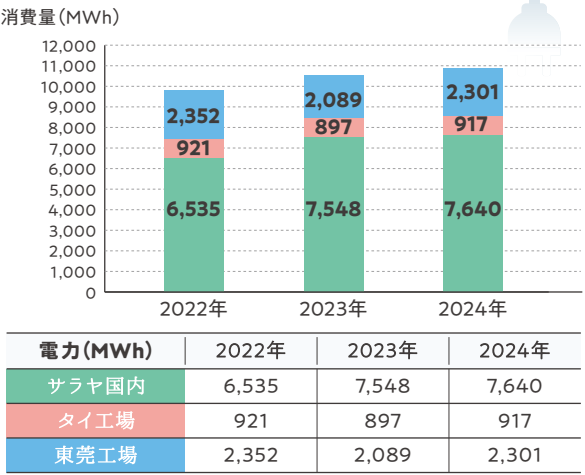
			サラヤ	東京サラヤ
社員数(人)	正規雇用	男性	756 人	255 人
		女性	436 人	115 人
	非正規雇用	男性	119 人	7 人
		女性	515 人	25 人
合計の女性比率(%)			52%	35%
国別社員数【国別】(人)			●アジア：192人 ●アメリカ大陸：2人 ●ヨーロッパ大陸：13人	
女性管理職比率(%)			16%	18%
定年後再雇用制度利用者数(人)			68人	14人
育児休業(人)	男性		15人	2人
	女性		46人	7人
介護休業(人)	男性		1人	0人
	女性		1人	0人
従業員向けの通報・相談窓口の運用実績(人)			計10人	

※2024年10月末時点

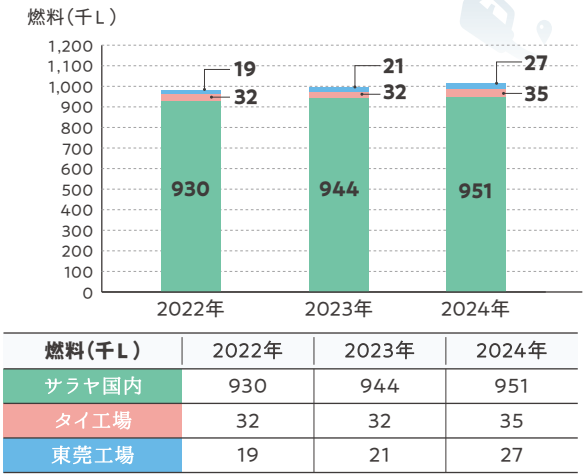
▶ 障がい者法定雇用率の推移

年度	2023	2024	2025
法定雇用率(%)	2.3	2.5	2.5
グループ全体(%)	2.59	2.62	2.76

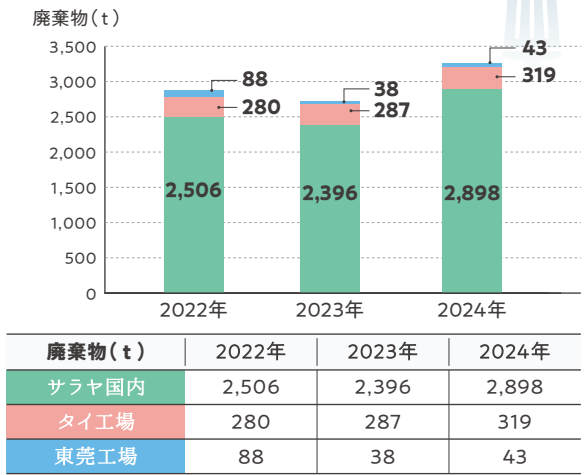
電力



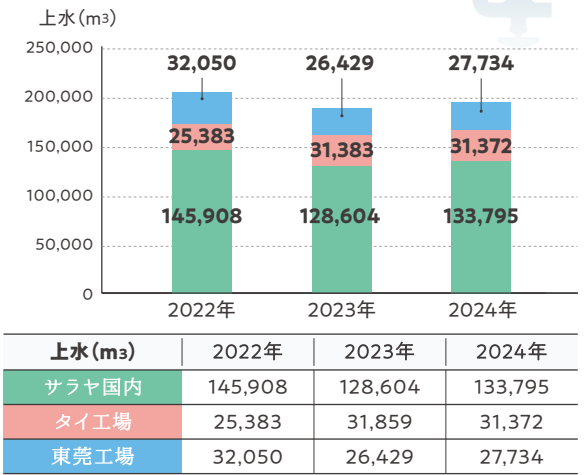
燃料



廃棄物



上水



温室効果ガス

サラヤでは東京本社と伊賀工場・関東工場に自家消費用太陽光発電設備を導入しており、2024年度は218トンのCO2排出量を削減しました。

スコープ	CO2換算計	占有率
1	2,323	2.3
2	3,120	3.1
3	95,903	94.6
計	101,346	100.0

排出源の分類	CO2排出
原材料の調達	73,089※1
生産設備の増設	2,612
エネルギー関連活動	1,080
調達物流、出荷輸送	14,435
外部委託の廃棄物処理	606
従業員の出張	239
従業員の通勤	488
販売した製品の使用	3,354※2

※1：当該年度に調達した原材料・部品にかかわる資材などが製造されるまでの資源採取段階から製造段階までの活動に伴う排出

※2：当該年度に販売した機器の使用者(消費者・事業者)による製品の使用に伴う排出

再エネ100宣言
RE Action

企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する枠組みです。サラヤ株式会社は2019年の発足時から、再エネ100宣言 RE Actionに参加し、2050年に再生可能エネルギー100%にすることを宣言しております。



サラヤ株式会社の概要

会社概要

社名	サラヤ株式会社	東京サラヤ株式会社
創業	1952年	-
設立	1959年	1969年
本社住所	〒546-0013 大阪市東住吉区湯里2-2-8	〒140-0002 東京都品川区東品川1-25-8
資本金	4,500万円	6,000万円

HP <https://www.saraya.com/>

サラヤ株式会社・
東京サラヤ株式会社
ホームページはこちら



会社情報 https://www.saraya.com/com_profile/

会社情報は
こちら

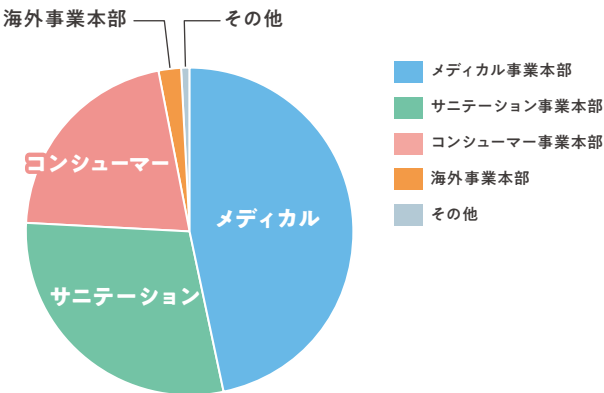


※創業は前身である三恵薬糧として創業した1952年、設立は三恵薬糧の一切の業務を引き継いでサラヤ化学工業株式会社を設立した1959年とした。
1984年、「自然派のサラヤ」を目指し、サラヤ株式会社と社名変更した。

事業部別売上

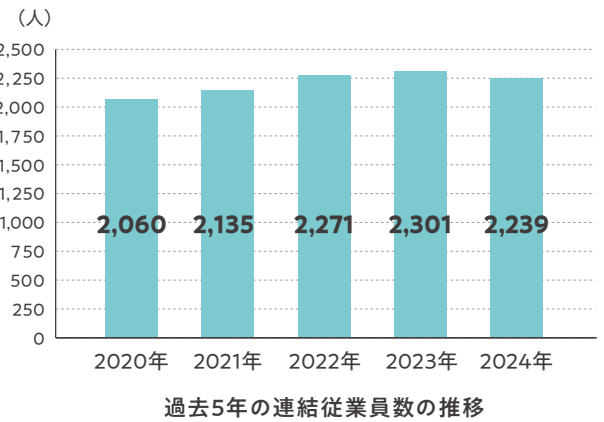
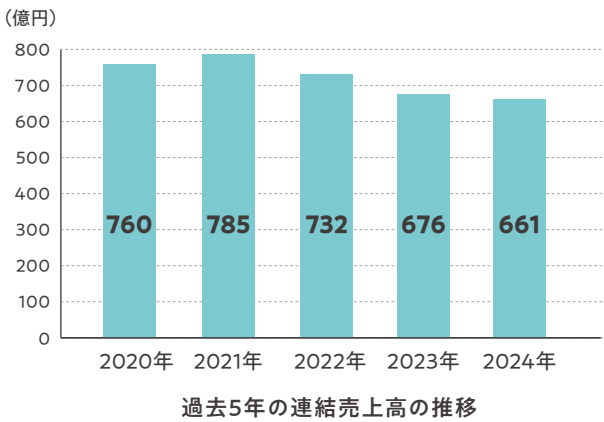
2024年度 事業本部売上比率

事業本部	売上(億円)	比率
メディカル事業本部	310	46.9
サニテーション事業本部	192	29.0
コンシューマー事業本部	140	21.2
海外事業本部	14	2.1
その他	5	0.8



年間売上高と従業員数(2024年10月末現在)

【サラヤ株式会社】・574億円 ・1,834人 【連結2社】・661億円 ・2,239人



サラヤ持続可能性レポート 2025 SUSTAINABILITY REPORT

発行日 2025年8月
発行者 サラヤ株式会社
デザイン/編集 豊生 朋華 / 関 雅美
お問い合わせ サラヤ株式会社
サステナビリティ推進本部
〒546-0013
大阪市東住吉区湯里2-2-8
ホームページ <https://www.saraya.com/>



■ 本レポートに関するアンケートに
ぜひご協力ください。

アンケート
サイトは
こちら



